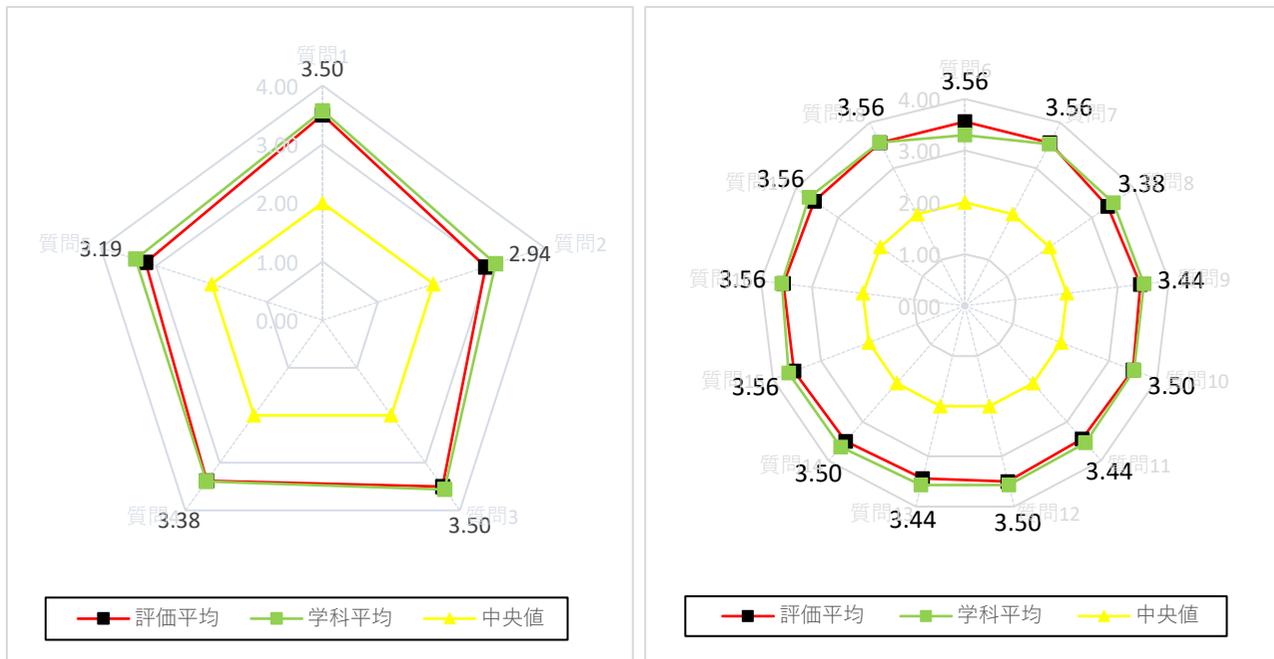


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

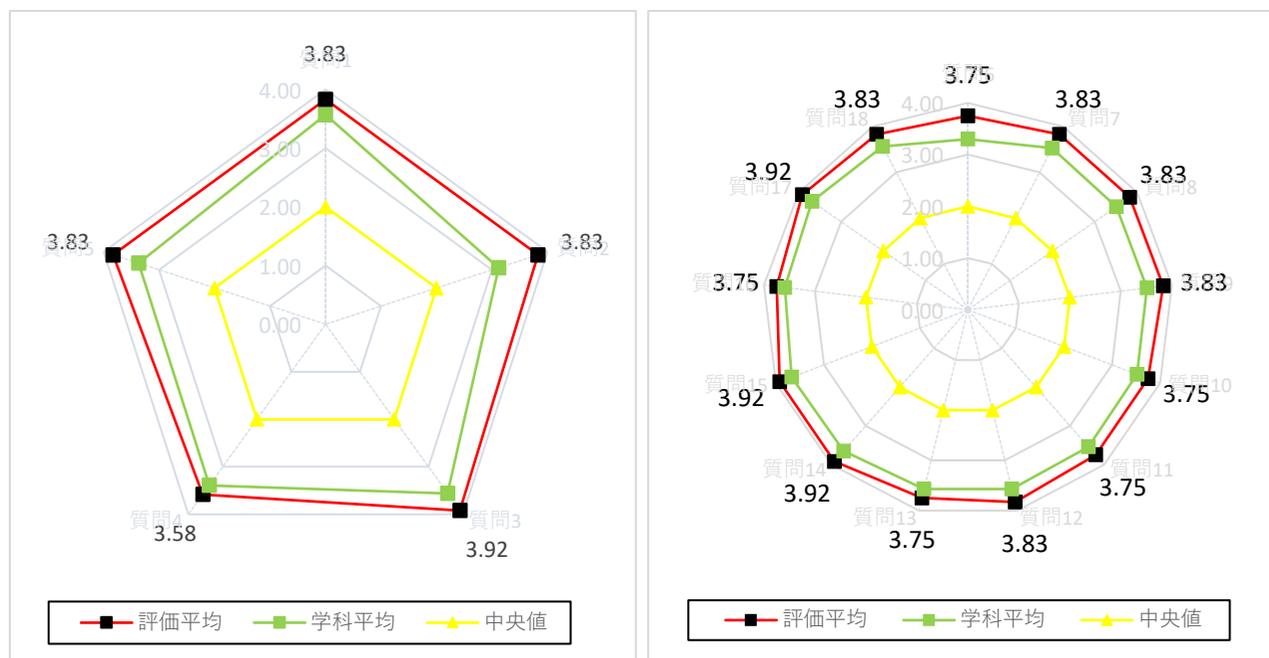
学生からの科目の評価は、 $3.45 \pm 0.16/4$ 点であった。内訳は、学生自身のこの科目への取り組みについての評価は $3.30 \pm 0.24/4$ 点、講義方法への評価は $3.50 \pm 0.06/4$ 点であった。評価が低かった項目は「学生自身がシラバスを活用したか？」であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身がシラバスを活用できるような講義を展開する工夫が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう I 基礎 (初 年次教育含)	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

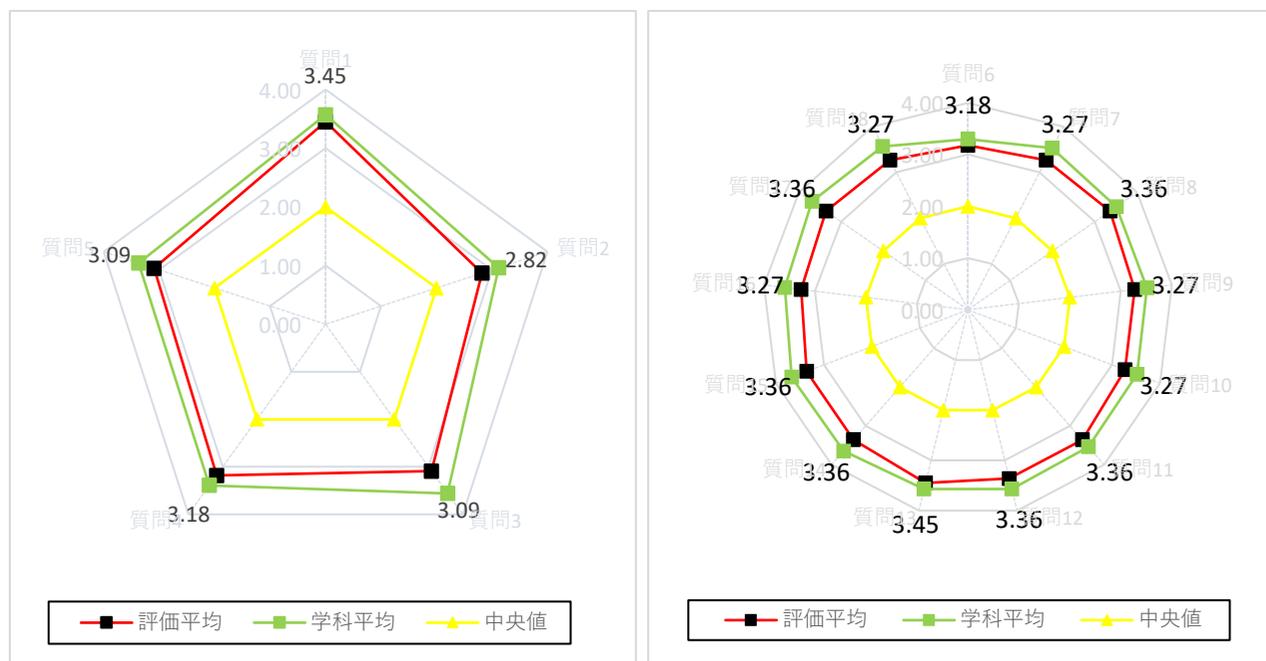
コロナ禍でなかなか思うような活動ができなかった。また、このような状況で積極的にボランティア活動を勧めることにも躊躇した。しかしながら学生の評価は比較的良好であった。学生は自分たちでできる活動を探してよく参加してくれていた。あまり活動がない中でも学生たち自身が意味を見出し、レポート作成、および発表までたどり着くことができた。この状況で学生がよく頑張り活動から得られたことが多かったからであると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年はコロナ禍でかなり活動制限があり、こちらとしても積極的に参加することを勧めることは躊躇されたが、少しずつ社会が感染管理をしながら活動できる方向に向かってきている。そこで昨年度はできなかった経験を今年補えるよう、チューター活動を充実させあすなろう活動のアドバイスや助言を行いたい。また、レポートの書き方等についても、一つ一つ丁寧に指導していけるよう配慮したいと考えている。昨年よりも学校に来る機会も増えているため、チューターの学生を見かけたら、あすなろう体験の進捗状況もこまめに確認していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Basic English I	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

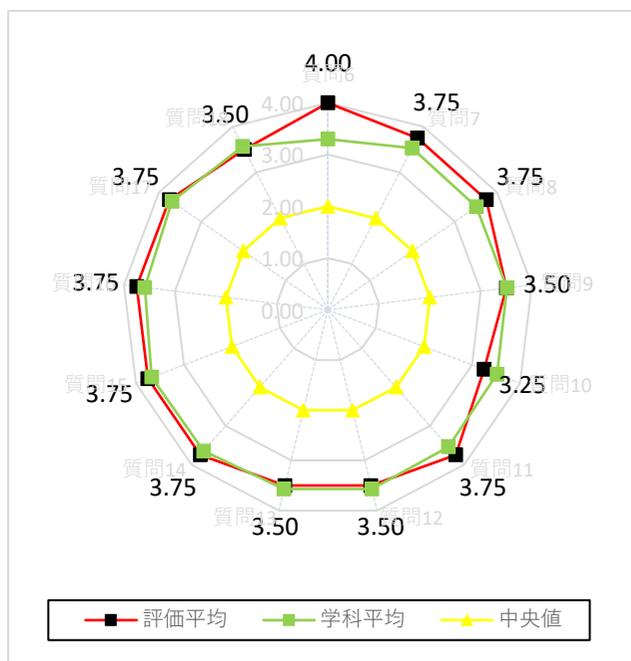
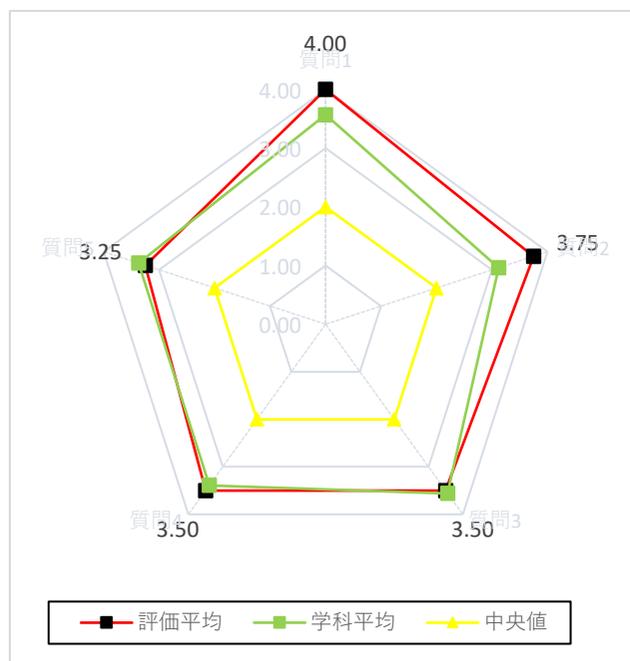
Basic English 1はオンラインで行われた。前期のGlobal English 1がオンデマンドでしたので、Basic English 1の授業進行に不満の学生がいたのではないかと考える。一年生で英語の先生に一度も対面の授業がない中学生よく頑張ったと思う。しかし、落ち着いた学生が数名もいて事業がやり辛い状況だった。提出物の期限を守らない、言い訳をする学生もいたので、基本的なメール作成、メール操作、添付のつけ方を学科で学ばせてほしいと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度Microsoft Teamsを使うことが決まったので、レポートや課題提出がより簡単になるといいと思う。内容に関してはどの学科は一緒なので、リハの学生向けの授業やり方改善を探ってみることとする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Basic English II	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

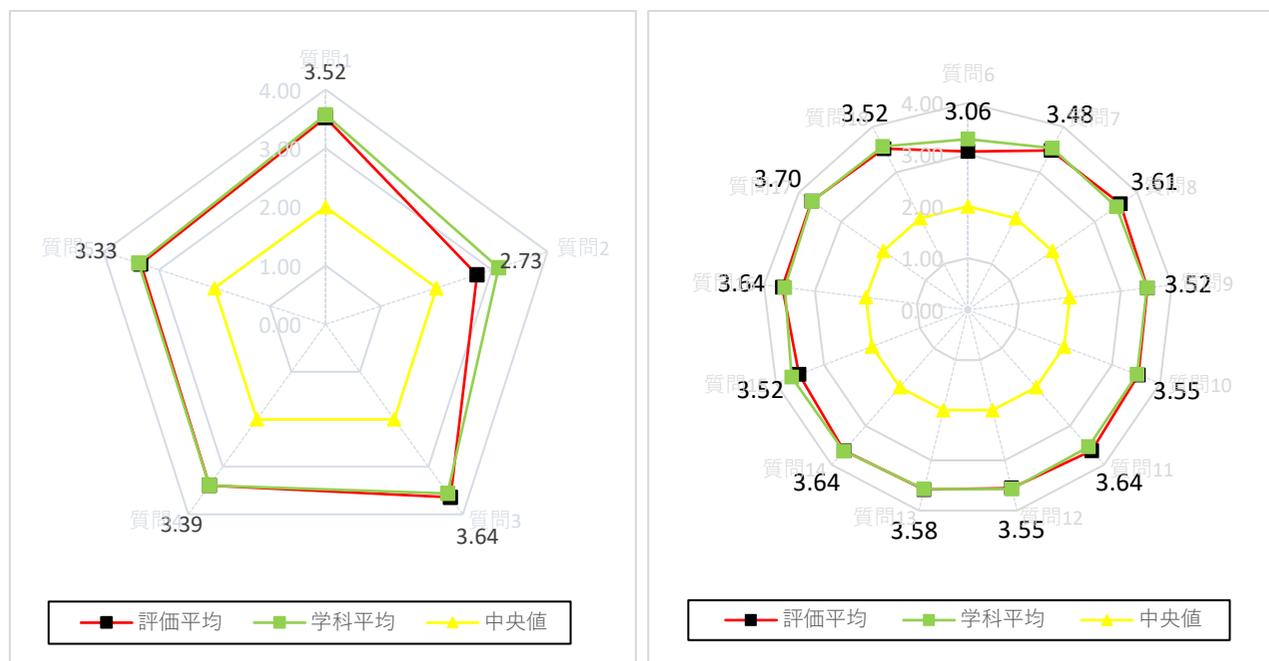
シラバスの説明をより定年にする工夫をしたところで初めて4の評価いただいた。毎回powerpointの作成は大変だったが、それも評価高かった。質問10に対してone driveで音声配布したが、アクセスできない学生もいたので、評価悪いと考える。オンラインの音声などでそのまま流しても聞こえない学生もいたので、やむえずlisteningはあまりスムーズにできなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もオンラインを想定されるので、学生がon driveにアクセスするや直接音声をダウンロードできるよう指示をしたい。Microsoft Teamsを使うならそういうところ克服できるといいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Global English I	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

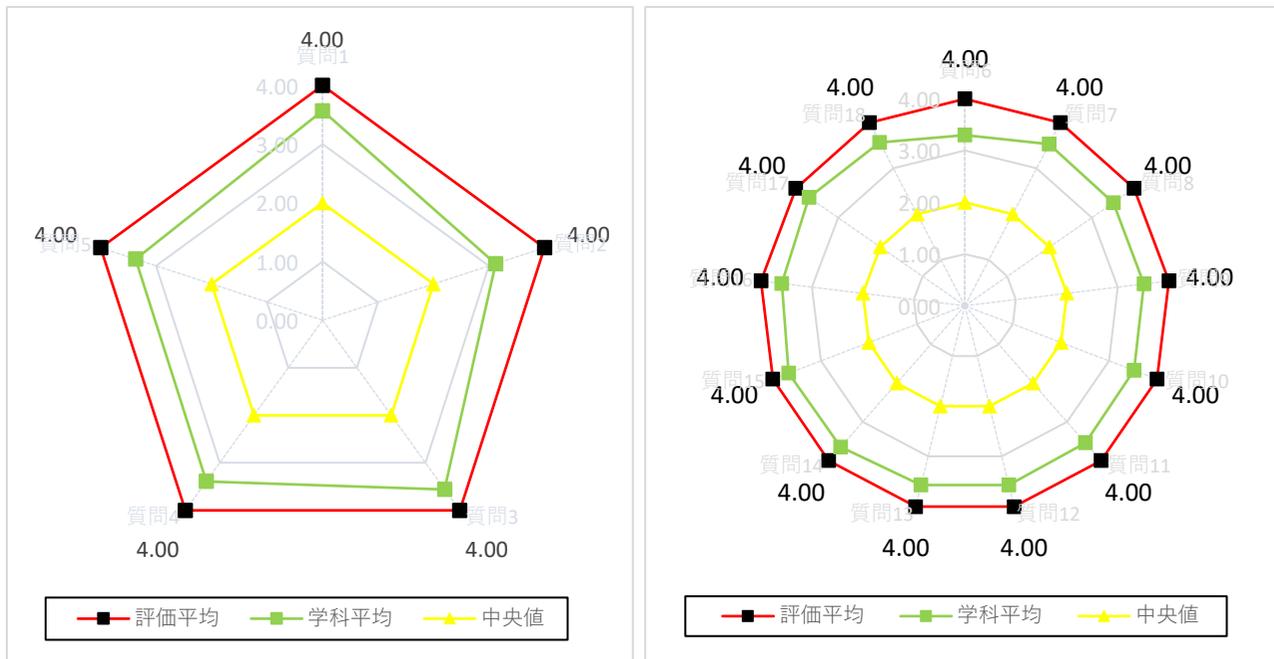
今年是对面無しオンライン授業展開となりました。オンライン教材となっているので、学生がパソコンや携帯使用時間はとても長いと感じました。携帯使用の学生は苦勞したと思います。気になるところは質問15で、公平に学生に対応したかという質問の答えです。学科平均より点数が低かったためその理由を聞きたいと思います。学生を公平に接する目標を立てますので、以外の結果となりました。授業中に全員がフル参加を求めたので、居眠りや私語を工夫した学生が多いようです。

(3) 次年度に向けての取り組み

総合的にいい表をいただきましたので、このままで次回も授業を進めて行く予定です。公平に学生に対応することに対して、今以上努力して公平に学生を接する方針です。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部 看護学部	社会福祉 子ども 心理カウンセリング		Global English I	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

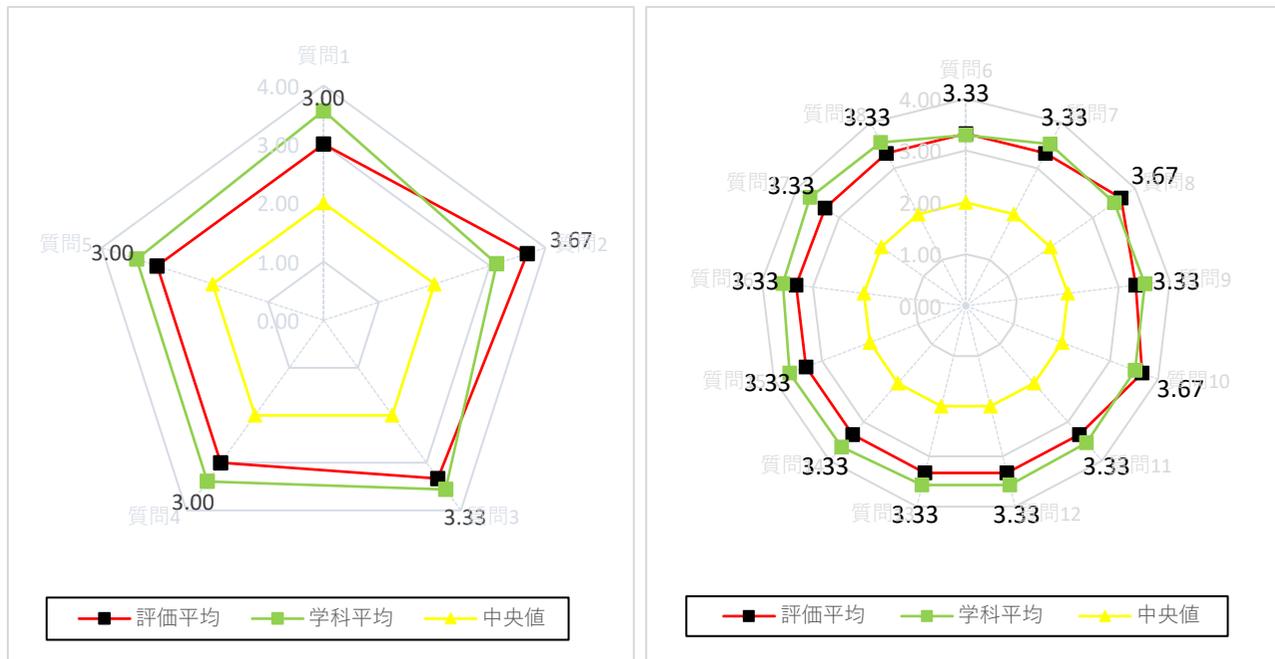
再履修のクラスでオンラインで行った。学生は積極的に参加し提出物や課題を頑張って提出された。

(3) 次年度に向けての取り組み

全学科の科目となるので、来年以降でもオンラインで実施したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 子ども学部	健康栄養 子ども 心理カウンセリング		Global English II	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

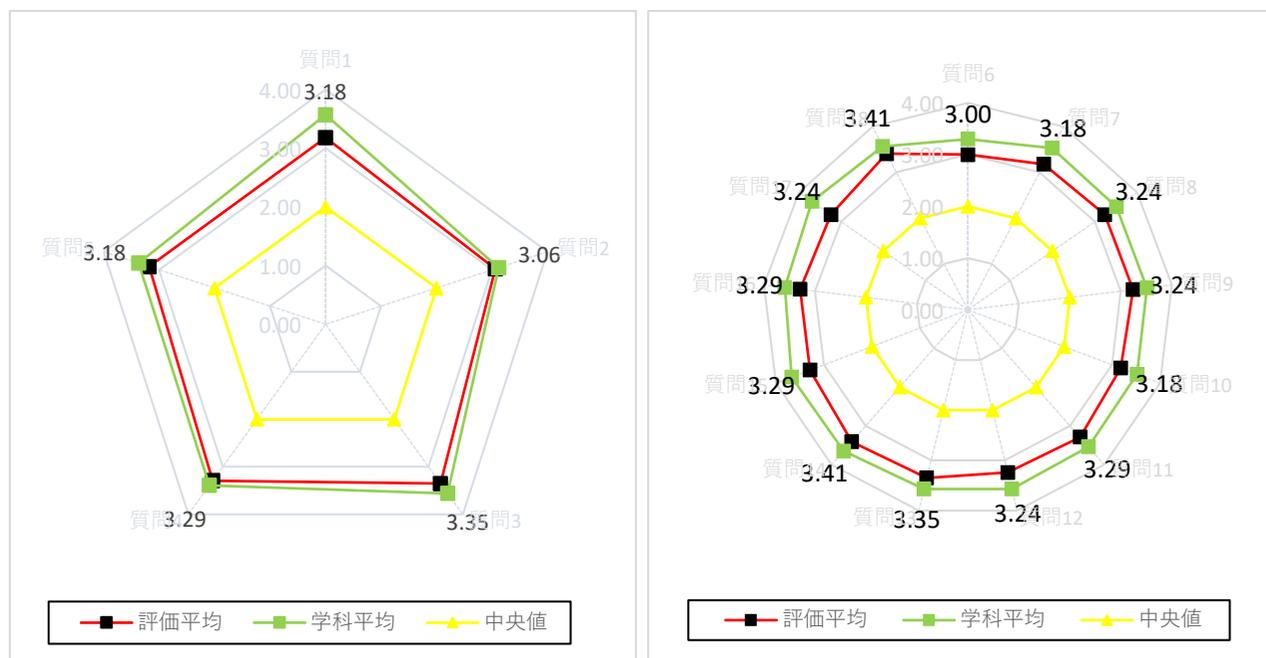
再履修のクラスでオンラインで行った。毎日2コマを8日連続で語学の授業には適していないと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度以降でもオンライン実施したいと思う。出来ればもっとゆっくりのペースで授業を設定したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		栄養学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

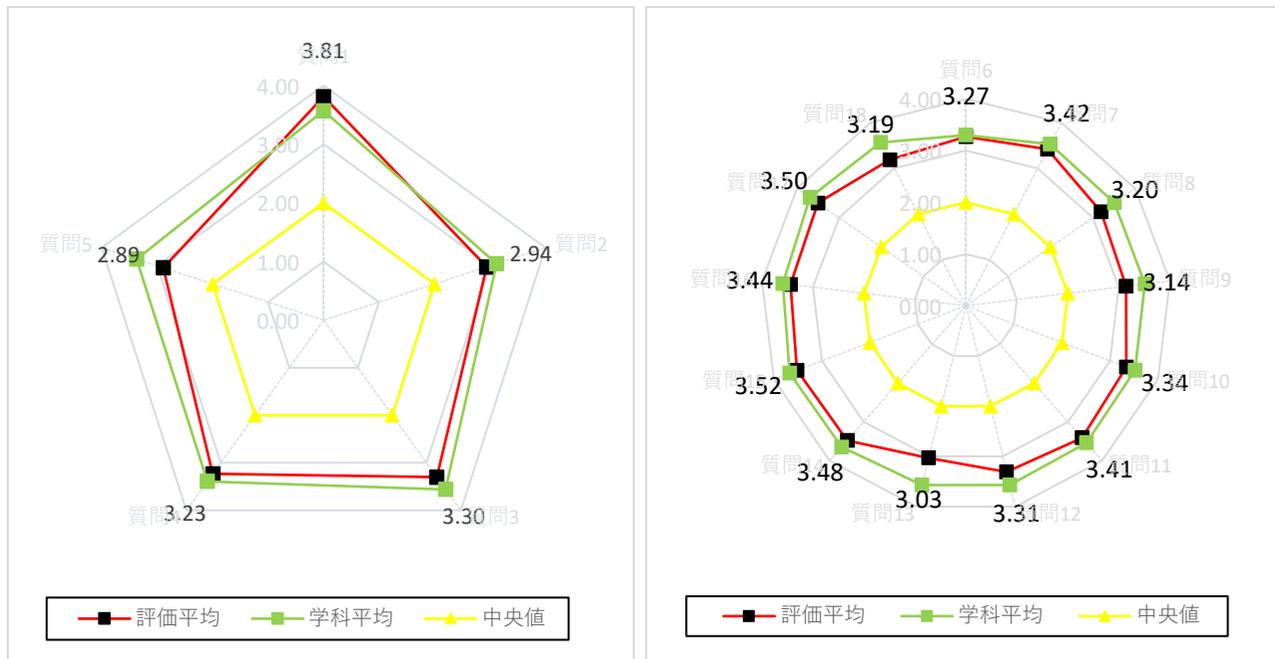
栄養学の授業評価においては、質問1を除き質問2から4までの学生自身の取り組みの項目、質問6から17までの教員の側の項においても、ほとんどが学科平均をやや下回っていた。この結果は、学生自身も関心が高くなく、興味を持ちにくい科目であることに寄るかも知れない。しかし、総合評価はほぼ学科平均であったので、一定の理解は得たのかもしれないと感じる。栄養学はリハビリテーション学部の専門基礎科目の中の基本科目として選択科目となっている。前年度までにおいては、受講生が少ないために不開講であったと聞いており、リハビリを専門とする学生にとっては関心の薄い内容であるのが残念である。

(3) 次年度に向けての取り組み

栄養学の授業評価においては、各質問項目のほとんどにおいて、学科平均より低い傾向にあった。次年度は開講期の変更により実施されず、その次から必修となると聞いている。次回からはテキストを用い、学生の興味や関心が高め、管理栄養士と職場において協働していく上で役立つ知識を得られる内容にしていきたいと思う。映像などの視聴覚資料を取り入れ、パワーポイントや板書などにおいても、学生が作業しながら理解を深めていけるように工夫したいと考えている。職場において管理栄養士と協働するための基礎知識を得られるように、いっそう改善したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学 I	73名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

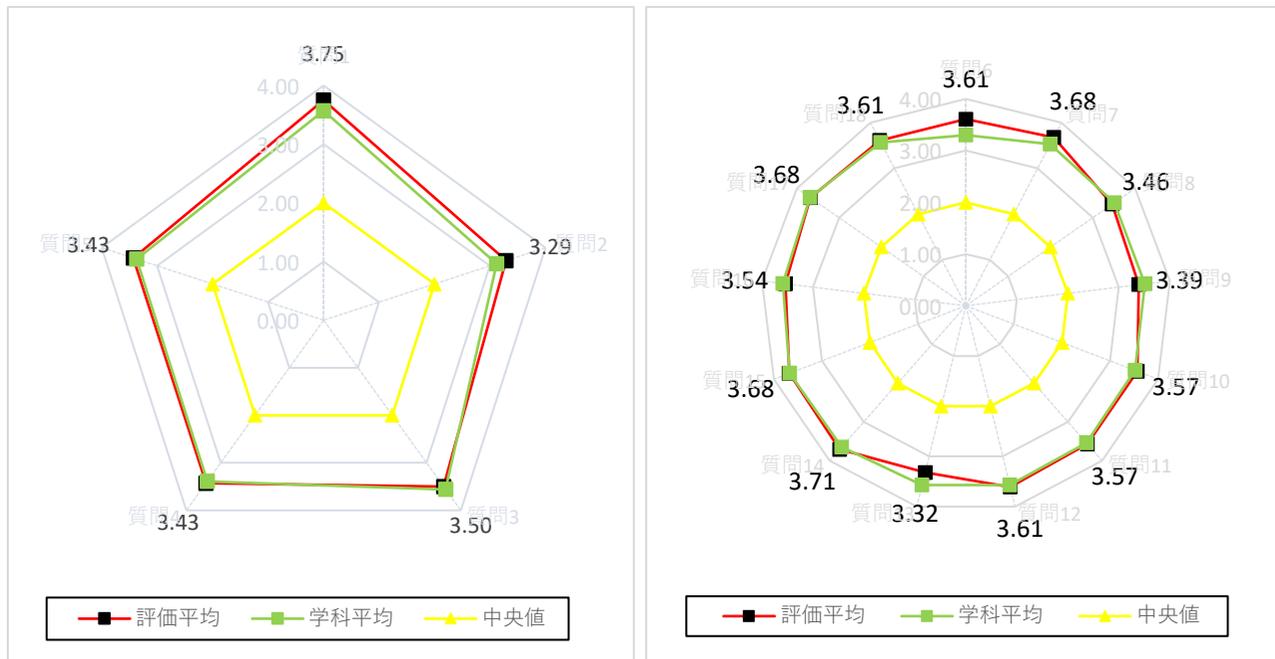
遠隔授業で講義内容の理解を得ることが難しかった。早めに対面に切り替えたことが良かったと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生は試験に出るところのみに興味があるように感じられる。もっと広く関心を持てる内容で講義できるように心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学Ⅱ	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

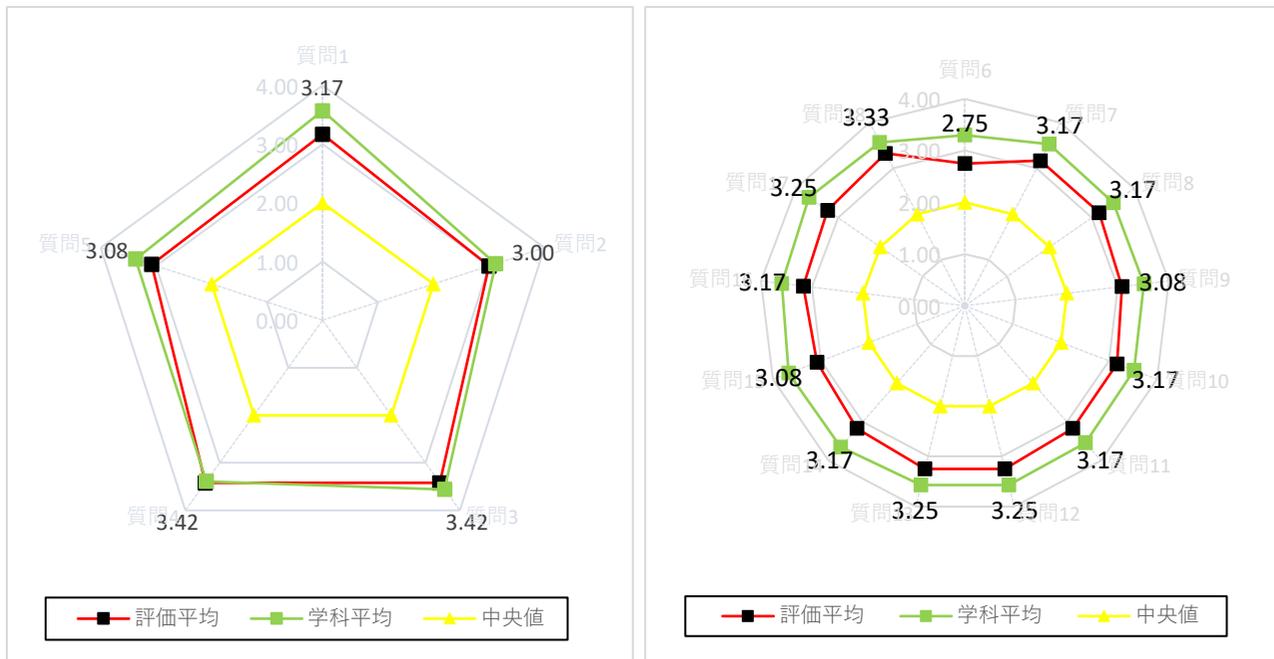
前期の「生理学Ⅰ」のアンケート結果をもとに、授業の進む速さは気を付けていたが、評価点は改善されなかった。しかし、全体の評価点は0.24点上昇し、全体の評価としては向上している。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は、急遽ポータルサイトでの課題やZoomでの対応となり、学生が学修する上で混乱を招いたのではないかと反省している。
 今後はオンライン講義でも分かりやすい講義となるように努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学実習	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

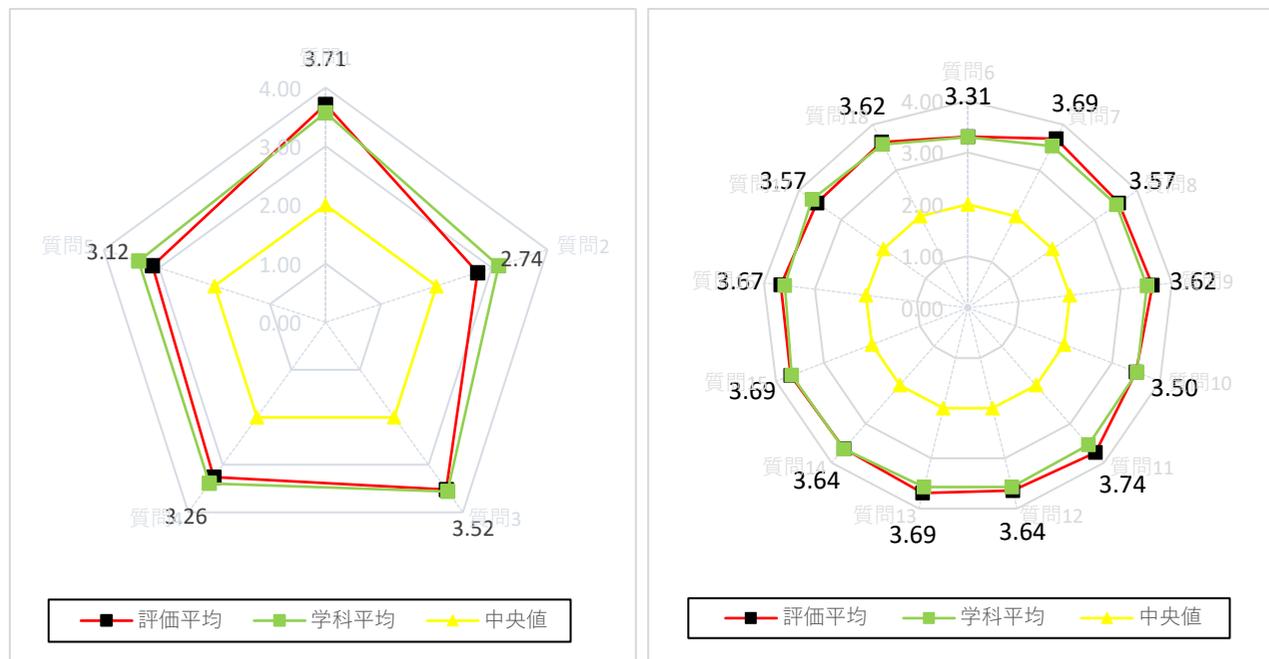
学生からのこの授業への評価は、 $3.17 \pm 0.15/4$ 点であった。学生自身の科目への取り組みについての評価は、 $3.22 \pm 0.19/4$ 点、講義方法への評価は $3.15 \pm 0.14/4$ 点であった。評価が低かった項目は「学生がシラバスを活用したか？」であった。計画になかった急な遠隔授業で対応したことから、計画通りに授業を展開できなかった。シラバスは活用できなかったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は科目担当者が変更になる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

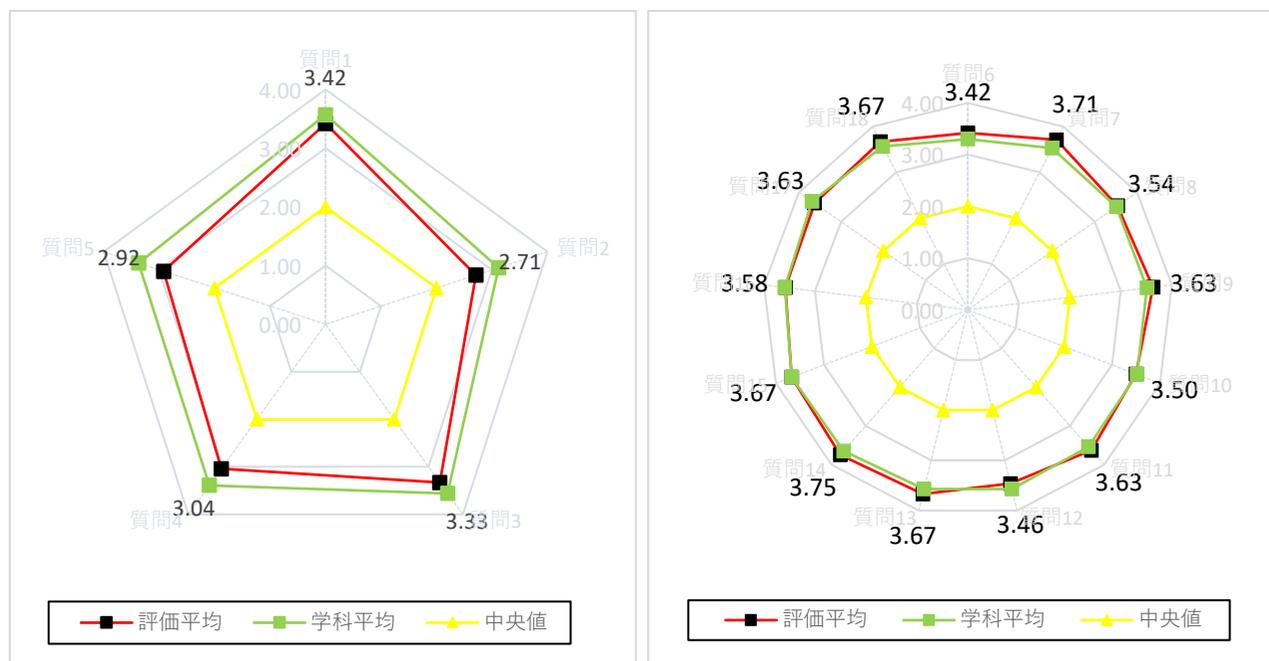
本年度は対面とZOOMを併用した授業となった。入学後、空白の時間がないように配慮し、すぐにオンラインでの授業を始めたが、教員の経験不足や学生の通信設備の個人差などがあり授業構成が難しかった。シラバスを変更し、資料を配布し、事前にノートを作成（予習）する形の授業構成とした。ノート作成方法や教科書の活用方法などが授業前半では上手く伝わらないことがあった。何度かオンラインでの授業を進めていくにつれ、学生が学修上困っていることが少しずつ把握できるようになり、シラバス予定を修正しながら授業を進めることが出来た。一方、最後まで学生と授業前後で課題のやり取りは出来たものの、教員とのやり取りがいつでも出来る気楽さから夜中に無記名のメールが来ることも多く対応に苦慮した。また、授業中の双方向的なやり取りには苦慮した。授業に満足できなかった学生も一部おり、次年度以降オンラインでの授業が継続する場合、授業方法など再考し満足度の高い授業にしていく必要性を感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

1年生最初の必修科目であり、理学療法に興味を持つような導入教材を検討する。オンライン授業になった場合、課題（ノート）を印刷することが学生には負担になっていたため、次年度オンライン授業が継続されるようであれば、ガイダンスなど登校日に資料を一括で配布し持ち帰ってもらえるよう準備を進める。専攻別の授業になって2年目となるため、学修に不安がある学生やより高度な知識を求める学生、それぞれに丁寧に対応を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

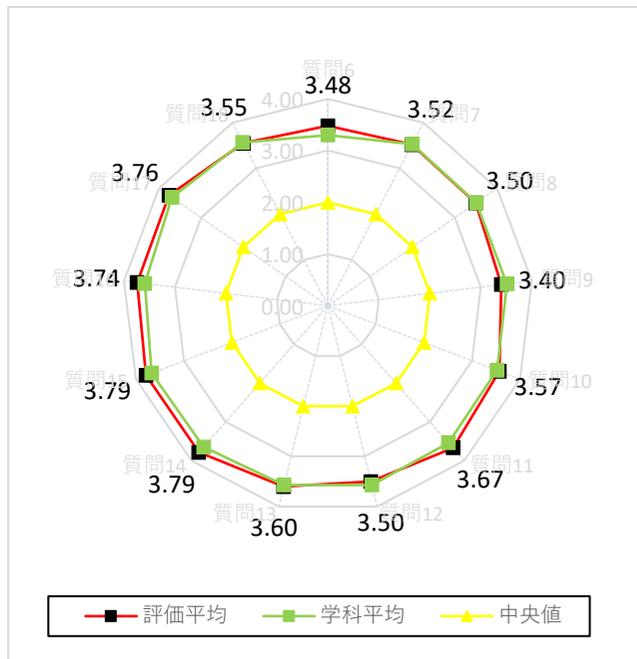
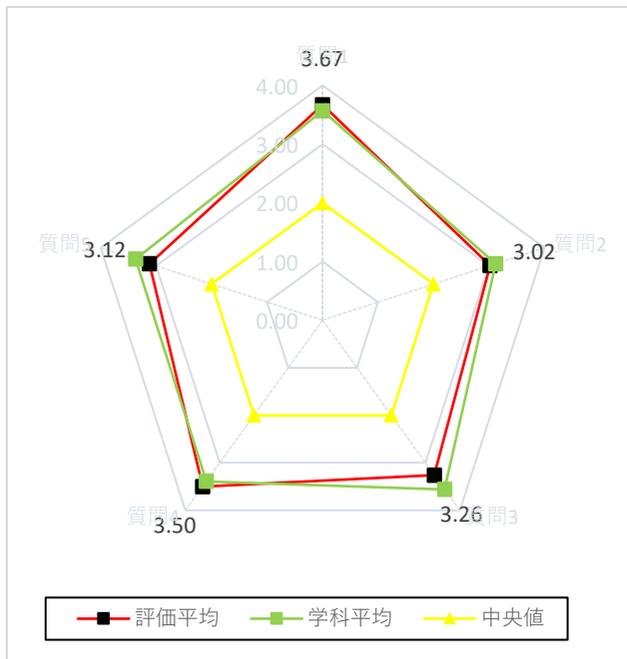
昨年度は新型コロナウイルスの影響があり、1年生でいきなり遠隔講義を受けることになり学生は大変分りにくかったことと思う。教員側もオンラインでの講義に慣れておらずわかりやすい授業展開をすることができていなかった。学生自身の評価としてシラバスが活用されていなかったり、理解するための工夫というところがあまりできていなかった結果、学生自身の総合自己評価が低くなったところだと考える。講義の際の声の大きさや明瞭さ、話す速度は特にマスクもしていることもあり、もう少し配慮の必要がある。自分自身の問題であるが、特にこの科目は国家試験にも出る範囲が多く教える内容が多いため、早口になる傾向があったことが推察される。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度の反省として、学生自身の自己学習ができていなかったことが挙げられたので、学生に対し具体的に講義を理解するための自学の方法を提示し、自己学習の取り組み方を伝えていきたい。自己学習ができていくかどうかのチェックや小テストを行い、講義以外の時間でも学習時間を確保し、内容をきちんと理解できるように促したい。さらに質問しやすい環境を作り、少しの疑問でも対応できるようこちらから声をかけたり、小テストでわからなかったところを解説するなど、フィードバックをしっかりと行っていきたい。また、自分で考える時間や重要な言葉を説明する時間を取り、自分の言葉で説明ができるかということや、発表するという事に慣れてもらえるように講義を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学 I	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

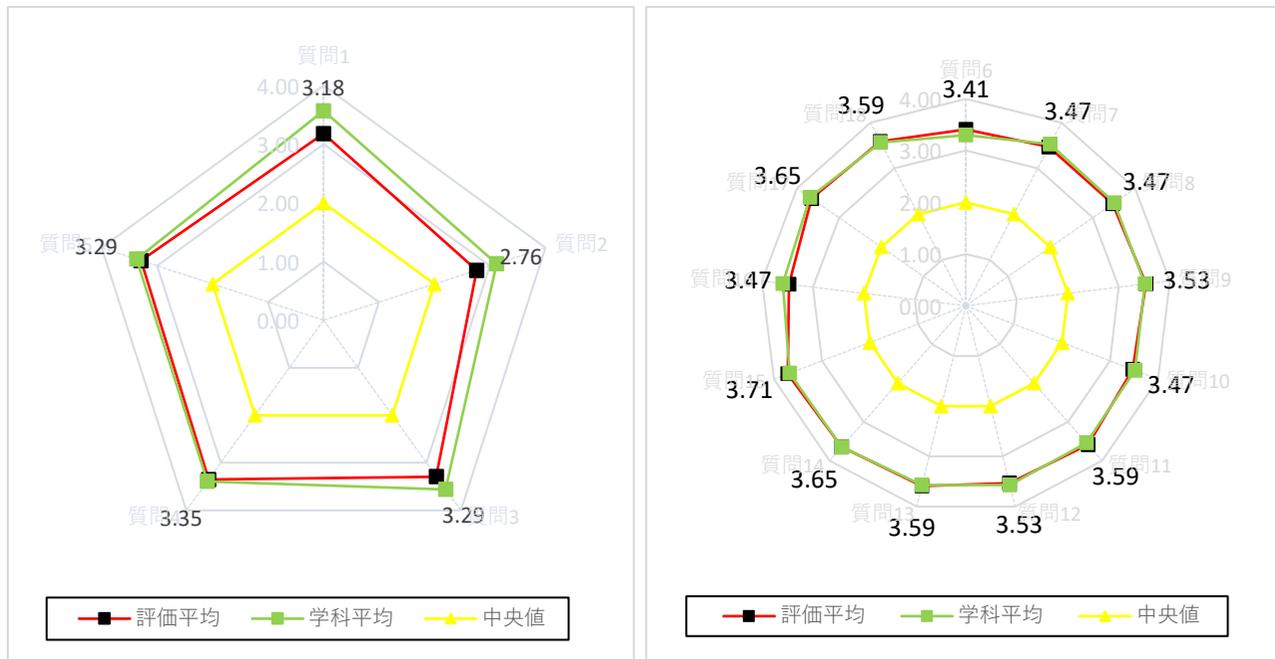
コロナ禍にしては、概ね良好であったと考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はさらにブラッシュアップしていきたいと思えます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学Ⅱ	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

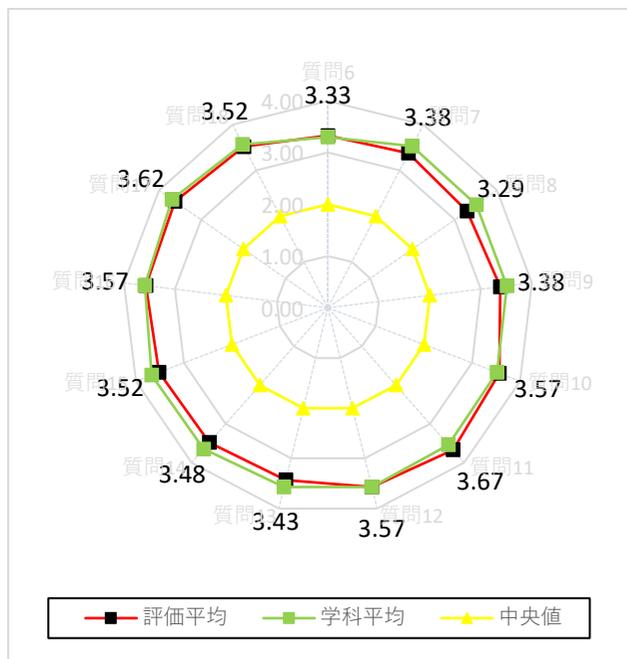
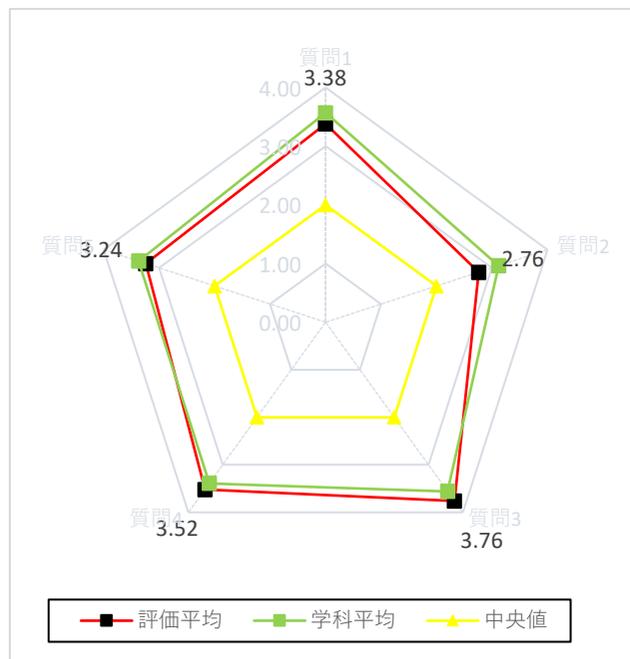
コロナ禍で思うような講義ができなかった。
しかし、学生からの評価は学科平均程度であり、おおむね良好と考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はさらにブラッシュアップしていきたいと思えます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学 I	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R2年度前期における学生のアンケート回答率は47%であった。すべての質問において学科平均程度の結果であった。

急に遠隔授業をすることになったが、事前に学習ノートを配布することができたため、学生も遠隔授業にも取り組みやすかったと思う。

遠隔授業の方法としてオンデマンド配信を採用したが、前期は音声付き録画にできなかったことから、学生には不便をかけたことと思う。

ポートフォリオのやり取りで、質問や感想を受け付け、個別に回答したり、必要に応じて全体へフィードバックを行った。

授業の中で小テストを行うなどして、理解度を確認した。

定期試験は対面で行い、全体の解説を行った。定期試験の平均点は昨年の対面授業の学生とほとんど変わらなかった。

自由記載から抜粋

「送られてきた動画の内容はわかりやすくまとめられていて、良かった」

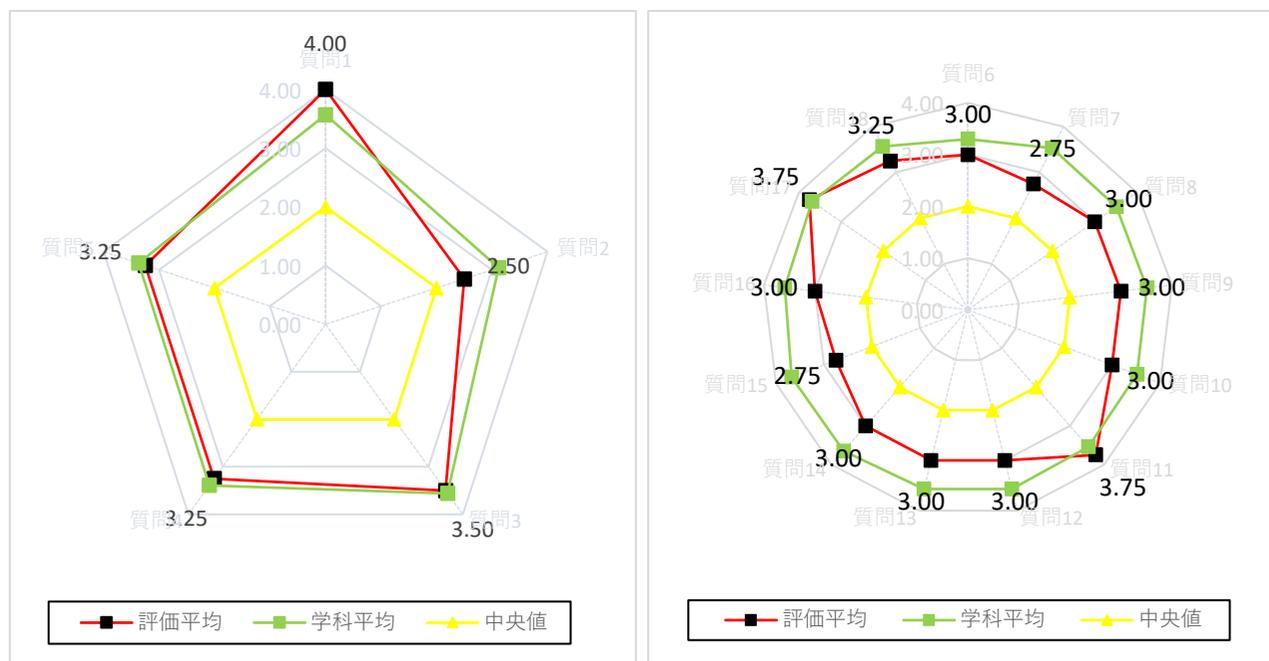
「繰り返し見て復習したり、一時停止をして見ることができるので、助かる」といった声が多かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

R3年度前期においても、遠隔授業を採用することとなり、音声付きのオンデマンド配信を行う。学習ノートには、巻末に練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良した。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学Ⅱ	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R2年度後期における学生のアンケート回答率が9%と低いため、回答した学生によるバイアスが高い可能性がある。

回答率が低かった理由は不明である。学科平均より低い項目については検討したい。

後期もオンデマンド型の遠隔授業を実施したが、前期より改善し音声付き動画を配信できた。

毎回ポートフォリオで感想・質問等を受けつけ、個別に回答したり、必要に応じて全体にフィードバックした。

数回に一度は対面授業を行い、小テストでの振り返りや解説を加えた。

定期試験の結果では昨年とほぼ同程度の平均点であり、遠隔授業でも学生の習熟状況にマイナス要因はなかった。

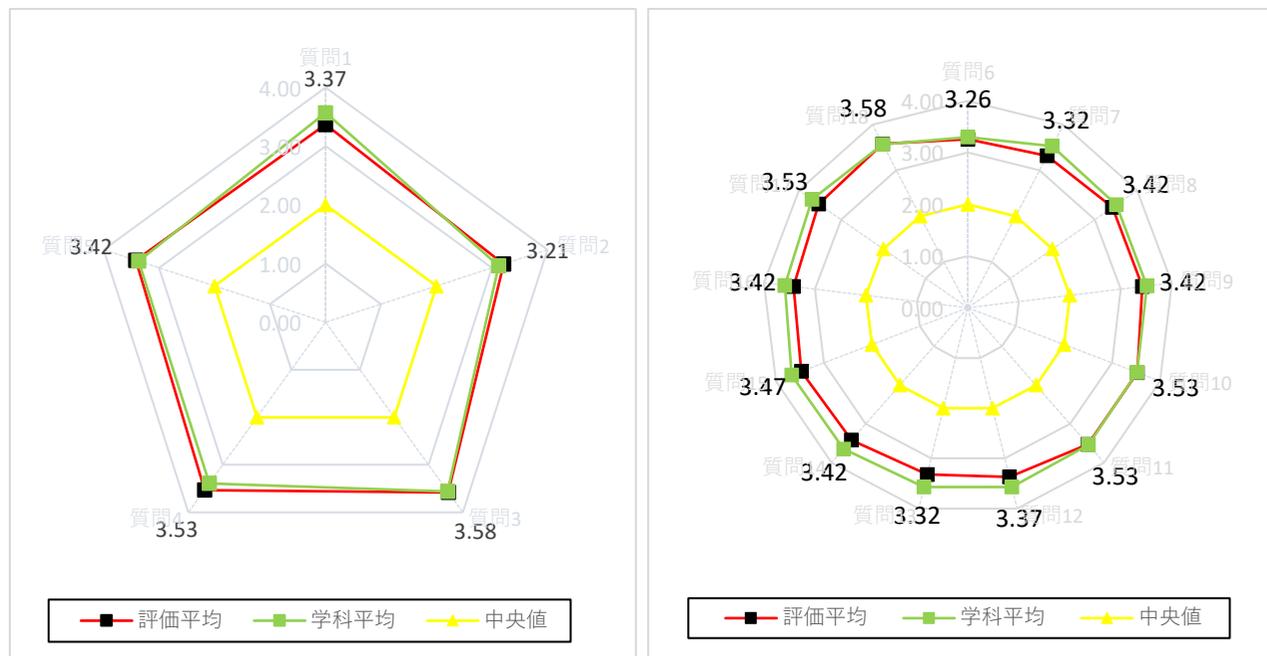
(3) 次年度に向けての取り組み

R3年度後期においても、遠隔授業を採用し、音声付きのオンデマンド配信を行う。

学習ノートには、巻末に練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良した。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科学 I	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R2年度前期における学生のアンケート回答率は42%であった。すべての質問において学科平均程度の結果であった。

急に遠隔授業をすることになったが、事前に学習ノートを配布することができたため、学生も遠隔授業にも取り組みやすかったと思う。

遠隔授業の方法としてオンデマンド配信を採用したが、前期は音声付き録画にできなかったことから、学生には不便をかけたことと思う。

ポートフォリオのやり取りで、質問や感想を受け付け、個別に回答したり、必要に応じて全体へフィードバックを行った。

授業の中で小テストを行うなどして、理解度を確認した。定期試験は対面で行い、全体の解説を行った。

定期試験の平均点は去年の対面授業の学生とほとんど変わらなかった

自由記載から抜粋

「送られてきた動画の内容はわかりやすくまとめられていて、良かった」

「繰り返し見て復習したり、一時停止をして見ることができるので、助かる」といった声が多かった。

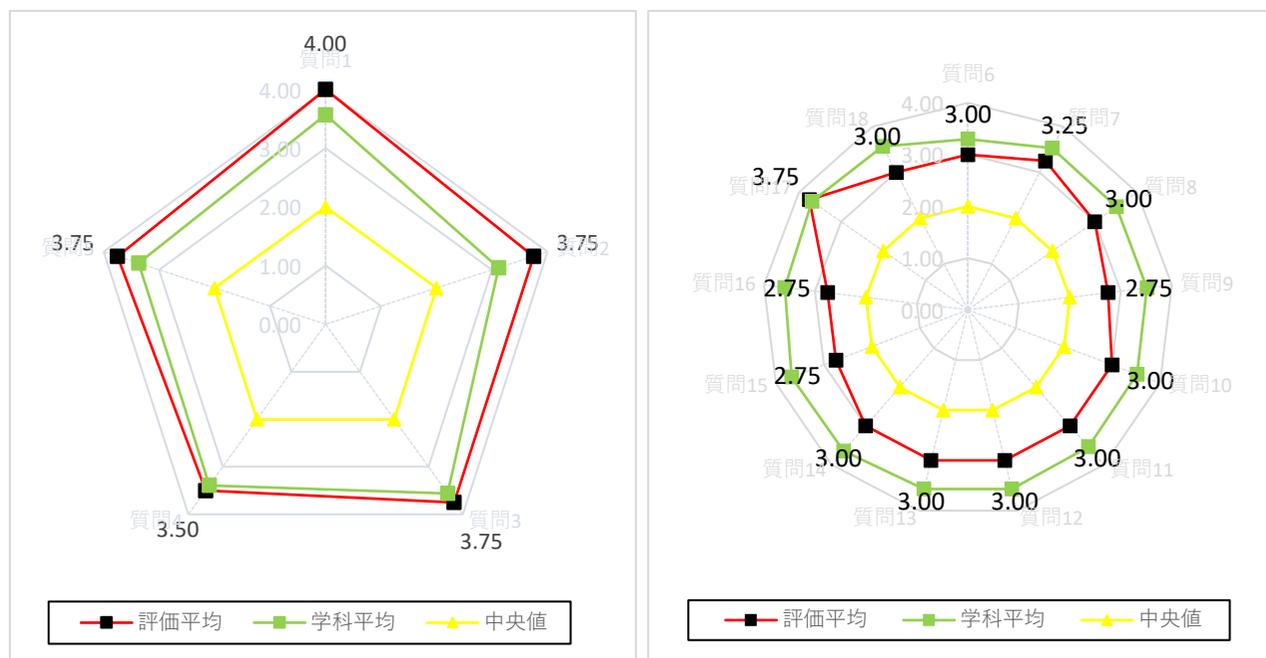
(3) 次年度に向けての取り組み

R3年度前期においても、遠隔授業を採用することとなり、音声付きのオンデマンド配信を行う。

学習ノートには、巻末に練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良した。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科Ⅱ	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R2年度後期における学生のアンケート回答率が9%と低いため、回答した学生によるバイアスが高い可能性がある。

学科平均より低い項目については検討したい。回答率が低かった理由は不明である。

後期もオンデマンド型の遠隔授業を実施したが、前期より改善し音声付き動画を配信できた。

毎回ポートフォリオで感想・質問等を受けつけ、個別に回答したり、必要に応じて全体にフィードバックした。

数回に一度は対面授業を行い、小テストでの振り返りや解説を加えた。

定期試験の結果では昨年とほぼ同程度の平均点であり、遠隔授業でも学生の習熟状況にマイナス要因はなかった。

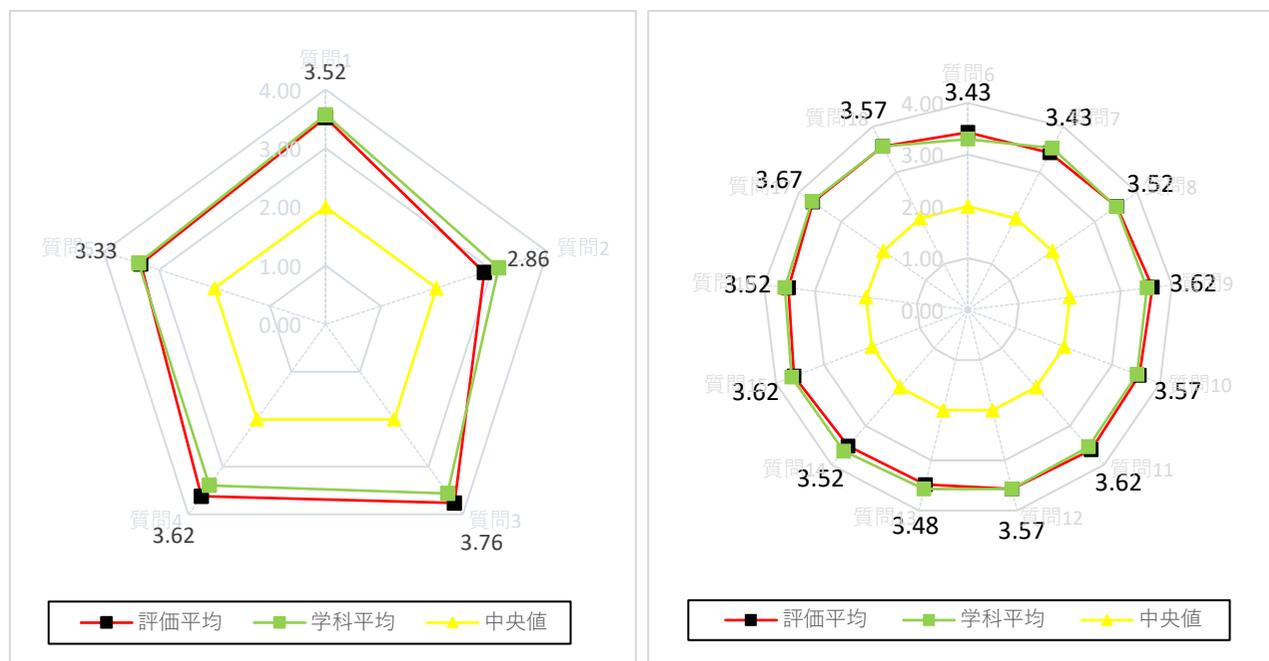
(3) 次年度に向けての取り組み

R3年度後期においても、遠隔授業を採用し、音声付きのオンデマンド配信を行う。

学習ノートには、巻末に練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良した。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学 I	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R2年度前期における学生のアンケート回答率は47%であった。

すべての質問において学科平均程度の結果であり特に問題点は見当たらない。

急に遠隔授業をすることになったが、事前に学習ノートを配布することができたため、学生も遠隔授業にも取り組みやすかったと思う。

遠隔授業の方法としてオンデマンド配信を採用したが、前期は音声付き録画にできなかったことから、学生には不便をかけたことと思う。

DVD動画を2回ほど活用し、学生の理解を助けるよう工夫した。

ポートフォリオのやり取りで、質問や感想を受け付け、個別に回答したり、必要に応じて全体へフィードバックを行った。

授業の中で小テストを行うなどして、理解度を確認した。定期試験は対面で行い、全体の解説を行った。

定期試験の平均点は昨年の対面授業の学生とほとんど変わらなかった。

自由記載から抜粋

「送られてきた動画の内容はわかりやすくまとめられていて、良かった」

「繰り返し見て復習したり、一時停止をして見ることができるので、助かる」といった声が多かった。

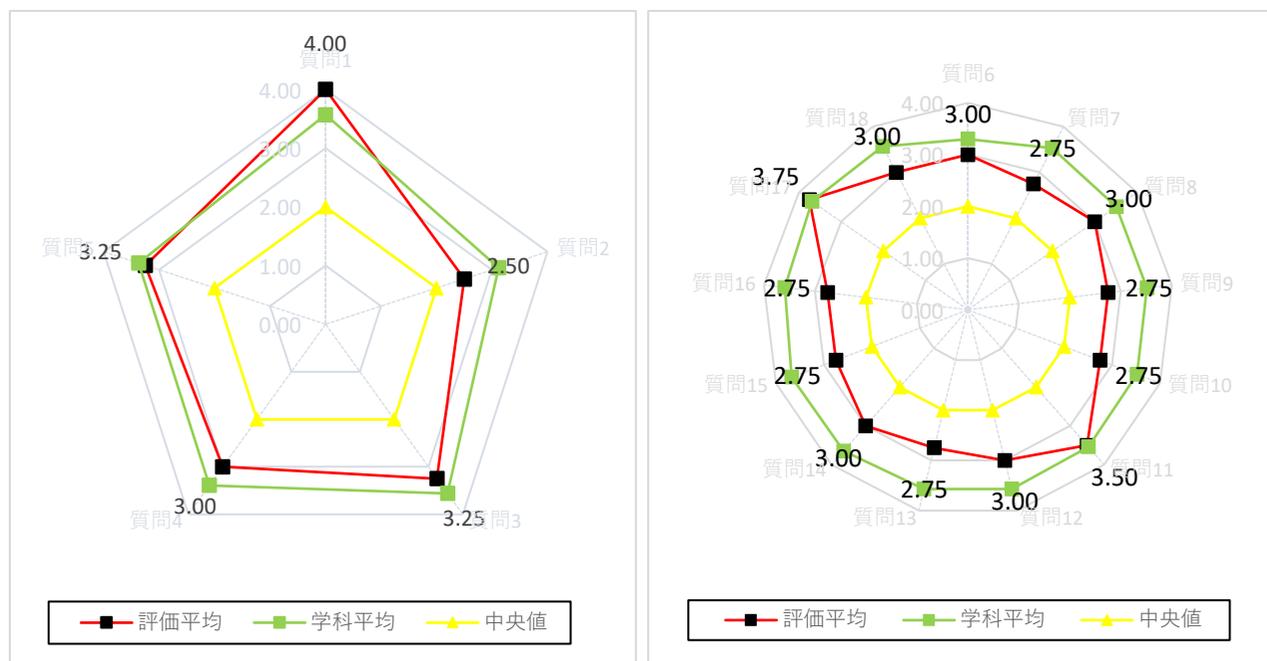
(3) 次年度に向けての取り組み

R3年度前期においても、遠隔授業を採用することとなり、音声付きのオンデマンド配信を行う。

学習ノートには、巻末に練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良した。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学Ⅱ	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

R2年度後期における学生のアンケート回答率が9%と低いため、回答した学生によるバイアスが高い可能性がある。

学科平均より低い項目については検討したい。回答率が低かった理由は不明である。

後期もオンデマンド型の遠隔授業を実施したが、前期より改善し音声付き動画を配信できた。

毎回ポートフォリオで感想・質問等を受けつけ、個別に回答したり、必要に応じて全体にフィードバックした。

数回に一度は対面授業を行い、小テストでの振り返りや解説を加えた。

定期試験の結果では昨年とほぼ同程度の平均点であり、遠隔授業でも学生の習熟状況にマイナス要因はなかった。

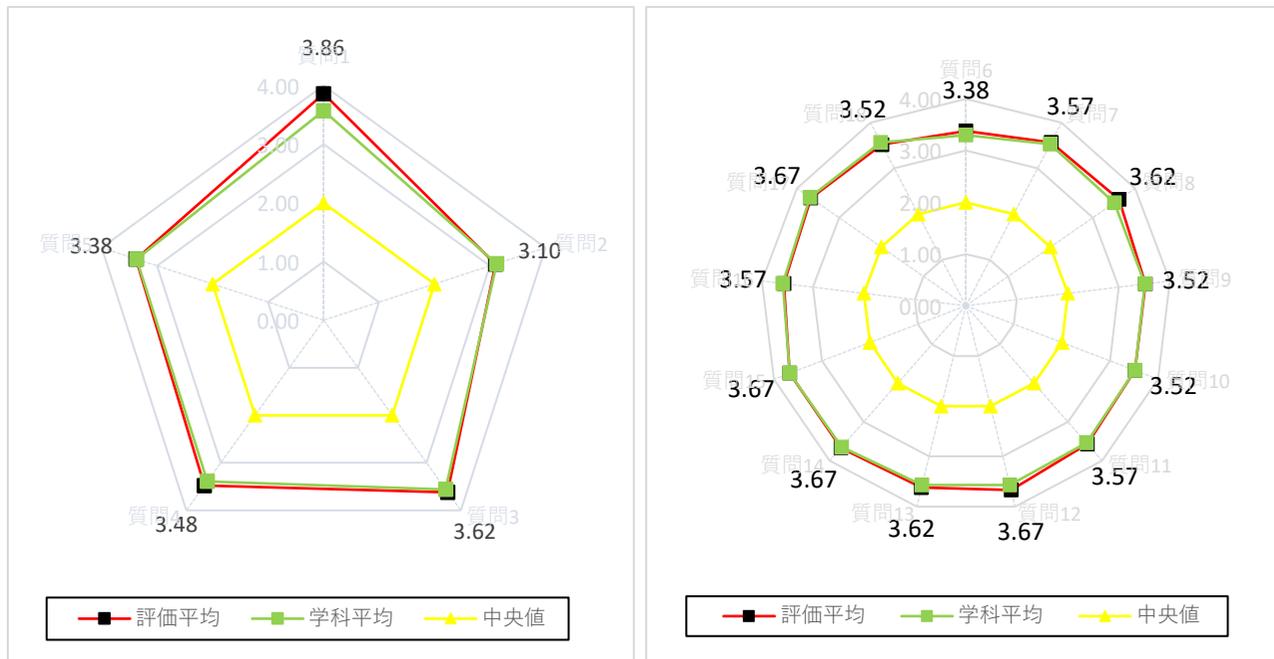
(3) 次年度に向けての取り組み

R3年度後期においても、遠隔授業を採用し、音声付きのオンデマンド配信を行う。

学習ノートには、巻末に練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良した。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		画像診断学	63名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

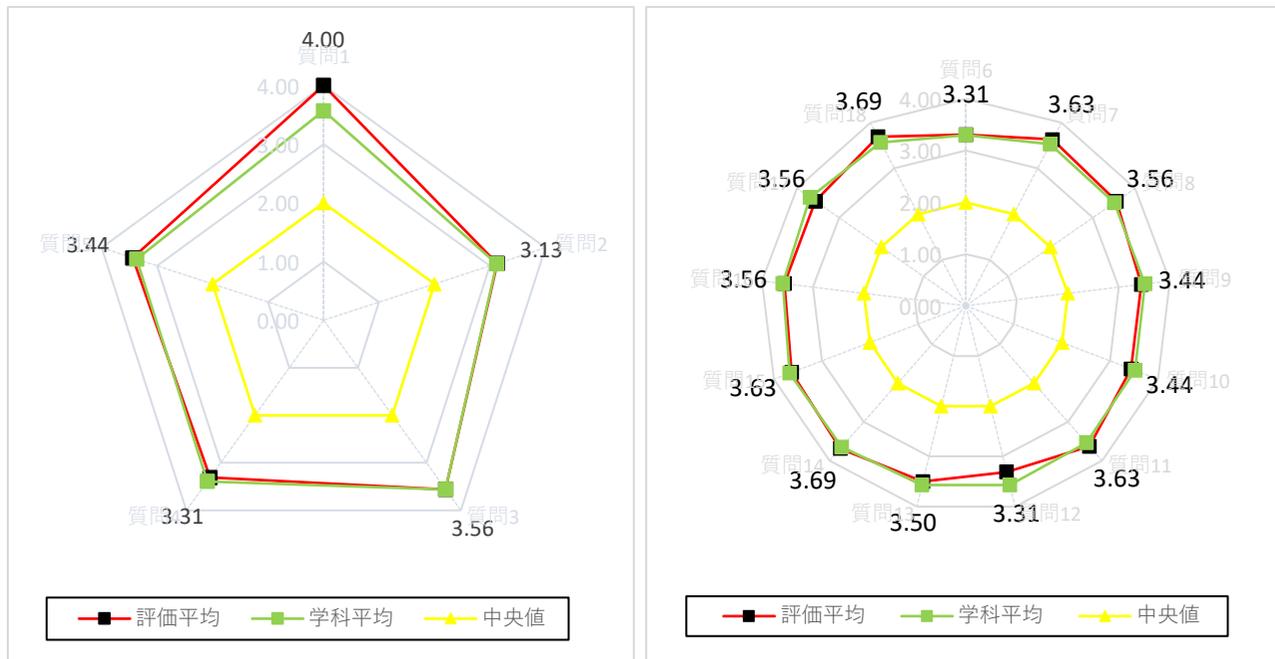
コロナ禍であり、思うような講義できなかった。
しかし、学生からの評価は学科平均程度であり、おおむね良好であったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はさらにブラッシュアップしていきたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

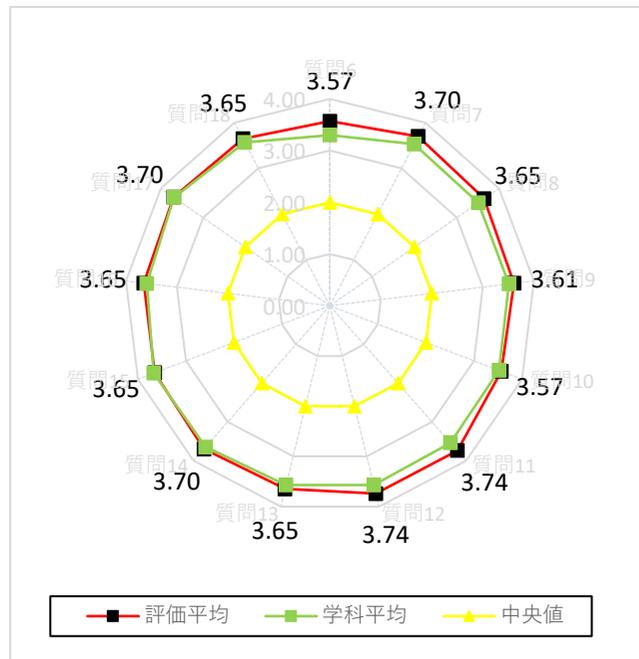
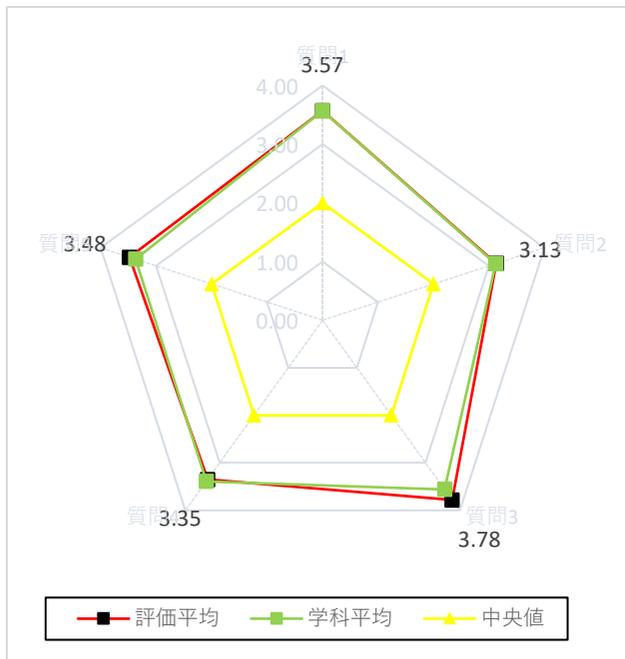
毎年、シラバスに関する質問の結果が低い。1回目の講義で説明はしているが本学学生には3回以上言わないと伝わらない。

(3) 次年度に向けての取り組み

座学だけではなく、データを解析しながら研究法の実際を学ぶ学習スタイルを踏襲する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法学概論	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

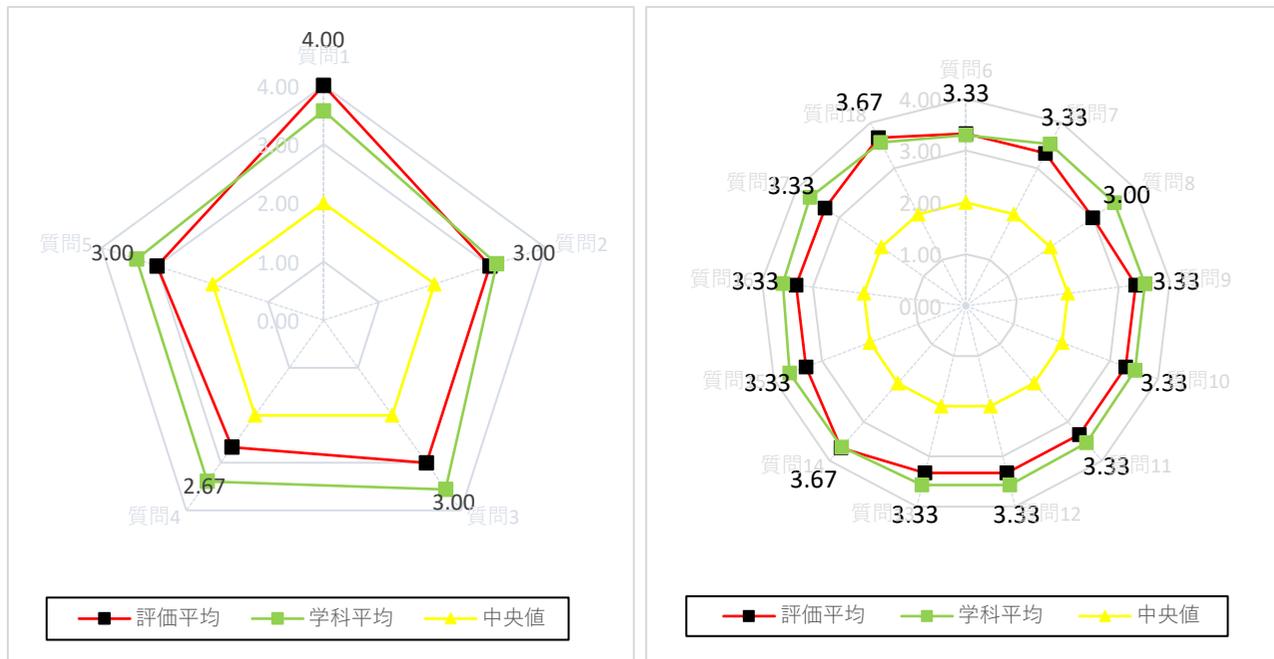
質問全般的に学科平均より高かった。しかし、本科目は作業療法の基礎を教授する講義であることから質問全般的により高い評価となるようさらなる工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

作業療法の基礎についてより理解が深まるよう、視聴覚教材（スライド等）の改善やアクティブラーニングの一層の活用を心がけて次年度の授業を展開したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法演習	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

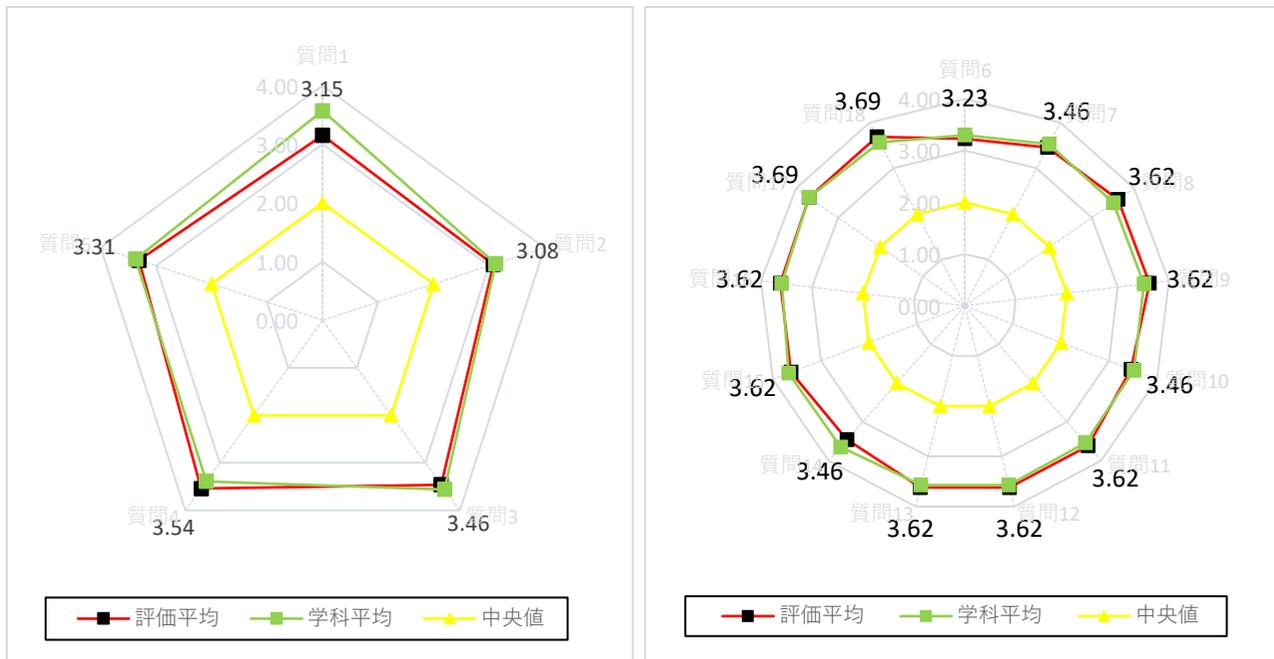
学生からの科目の評価は、 $3.30 \pm 0.30/4$ 点であった。内訳は、学生自身が科目へ取り組みについての評価は $3.13 \pm 0.50/4$ 点、講義方法への評価は $3.36 \pm 0.17/4$ 点であった。評価が低かった項目は「学生がこの授業を理解するために自分で何か工夫をしたか?、平均2.67点」であった。このことから、学生は受け身で受講した様子がうかがわれる。

(3) 次年度に向けての取り組み

積極的に学ぼうとするような指導方法の工夫が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学 I	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

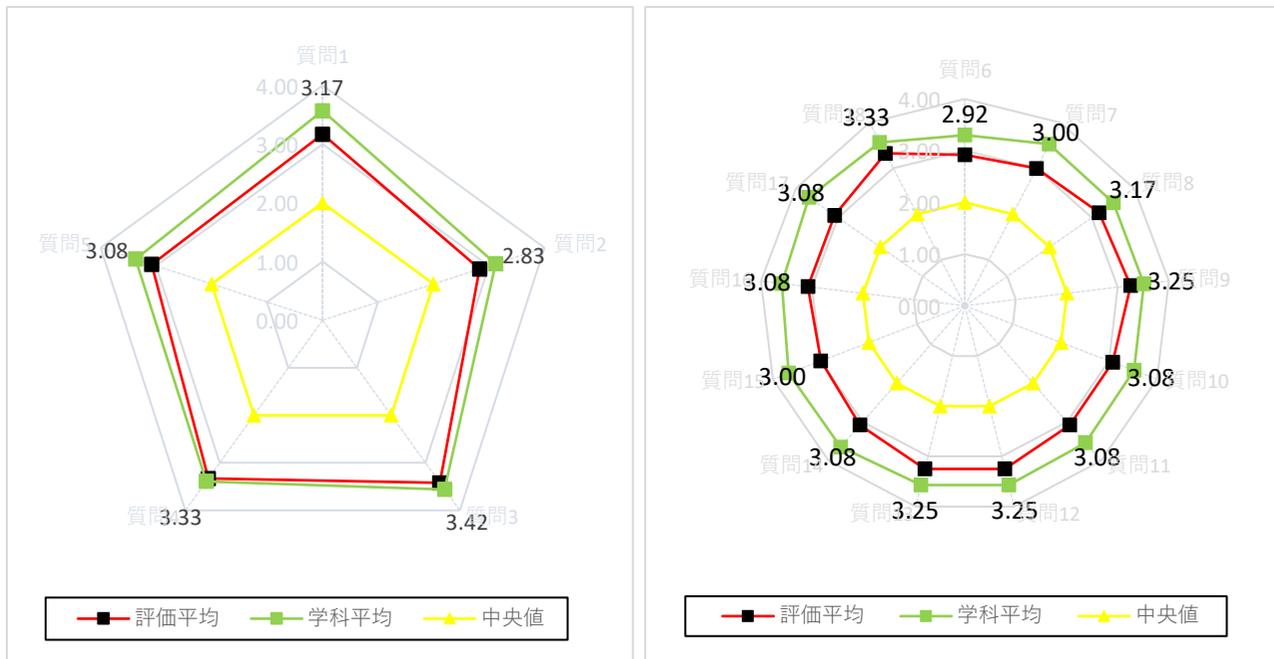
前半オンラインでの講義となった。例年、実技を交えた講義を行っていたため、シラバスを変更しながら対応した。シラバスの変更については講義の中で口頭で説明することが多くなったが、分析結果を見ると、シラバス変更について情報が行き届いていなかった点は反省したい。後半、対面での講義が始まってからは講義内容が過密になったが、オンラインでの講義中も学生がよく勉強していたため、例年通りの講義を終了することが出来た。

(3) 次年度に向けての取り組み

オンライン授業になる可能性を見越し、教材の準備に早めに取り掛かる。また実技を交えた講義は感染予防に十分留意しながら進めたい。社会状況によりシラバス変更する場合は、紙面上でシラバスを再度示し学生への周知を図るよう心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅱ	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

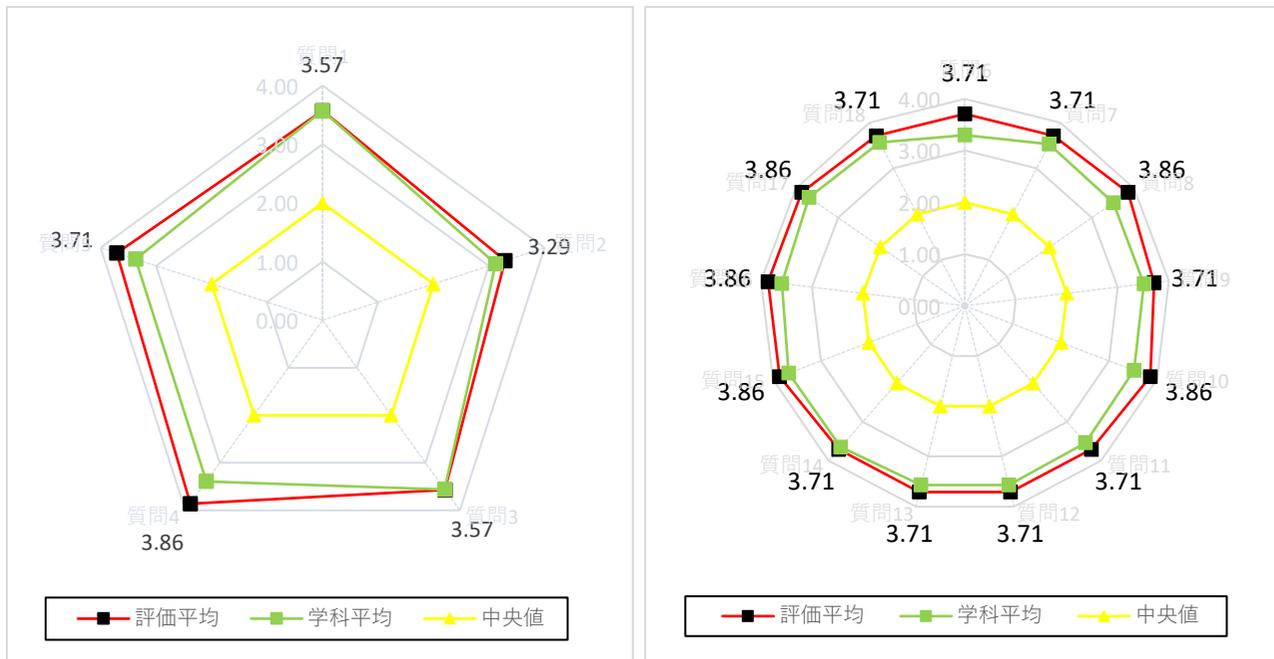
この科目への評価は、 $3.13 \pm 0.15/4$ 点であった。内訳は、学生自身の科目への取り組みについての評価は $3.17 \pm 0.23/4$ 点、講義方法への評価は $3.17 \pm 0.23/4$ 点であった。評価の低かった項目は「学生自身がシラバスを活用しましたか？」であった。シラバスを活用するような講義を展開しなかったため、評価が低くなったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

科目の全体像を見ながら各論を講義するような工夫が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学演習 I	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

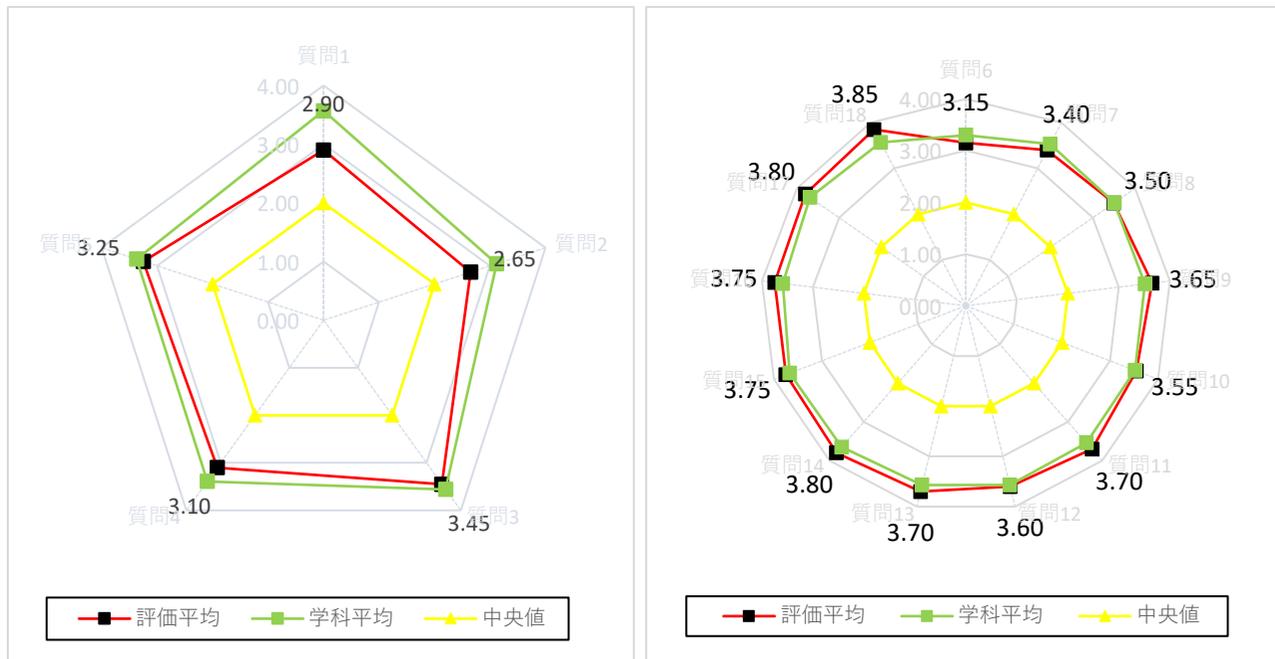
質問全般的に学科平均より高かった。本科目は作業療法評価において必須の評価技術を教授する講義であることからより高い評価となるようさらなる工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価技術がより高まるように丁寧な指導を引き続き心がけたい。また、学生が興味をひくようにより明快な解説ができるよう授業準備ならびに授業展開を心がけたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学 I	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

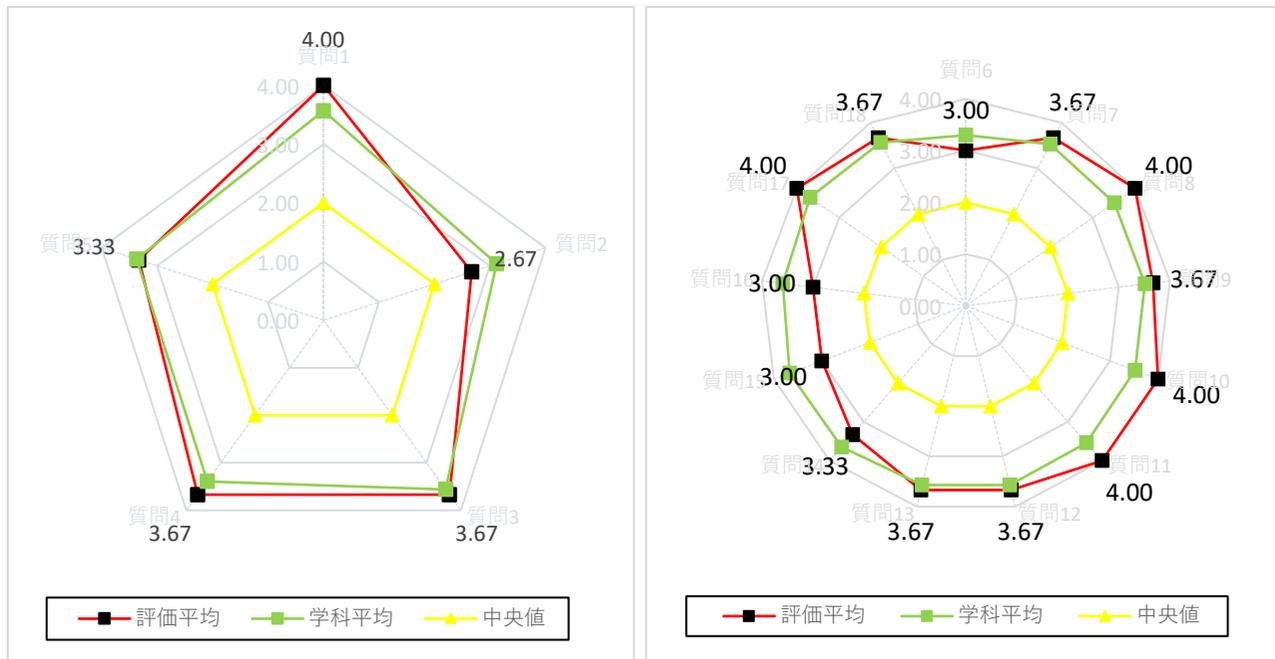
学生からの科目の評価は、 $3.48 \pm 0.34/4$ 点であった。内訳は、学生自身の科目へ取り組みの評価は $3.07 \pm 0.31/4$ 点、講義方法への評価は $3.63 \pm 0.19/4$ 点であった。評価が低かった項目は「学生自身がシラバスを活用したか？」であった。実際に、シラバスを活用するような講義展開をしなかったことから評価が低かったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

現在、復習を行うように講義を展開してきた。さらに、学生が予習にも取り組むような仕掛けを考える必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学実習	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

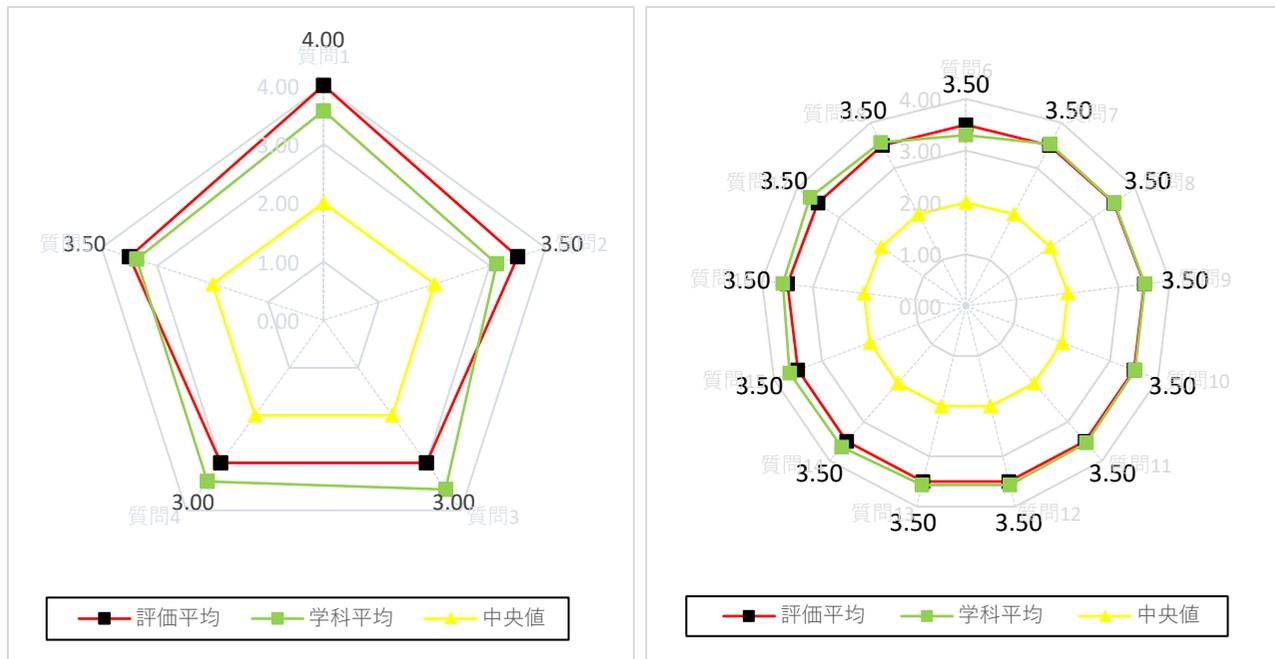
学生からの評価は、 $3.56 \pm 0.41/4$ 点であった。内訳は、科目に対する学生自身の取り組みは $3.47 \pm 0.50/4$ 点、講義方法への評価は $3.59 \pm 0.39/4$ 点であった。評価が低かった「シラバスの説明、3.0点」や「公平な対応、3.0点」は適正な取り組みを行ったものの、さらなる丁寧な説明が求められる。

(3) 次年度に向けての取り組み

実技の修得を目指す科目であることから、講義時間外に学生ら自身で練習を行いやすくする工夫にも取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学演習Ⅱ	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

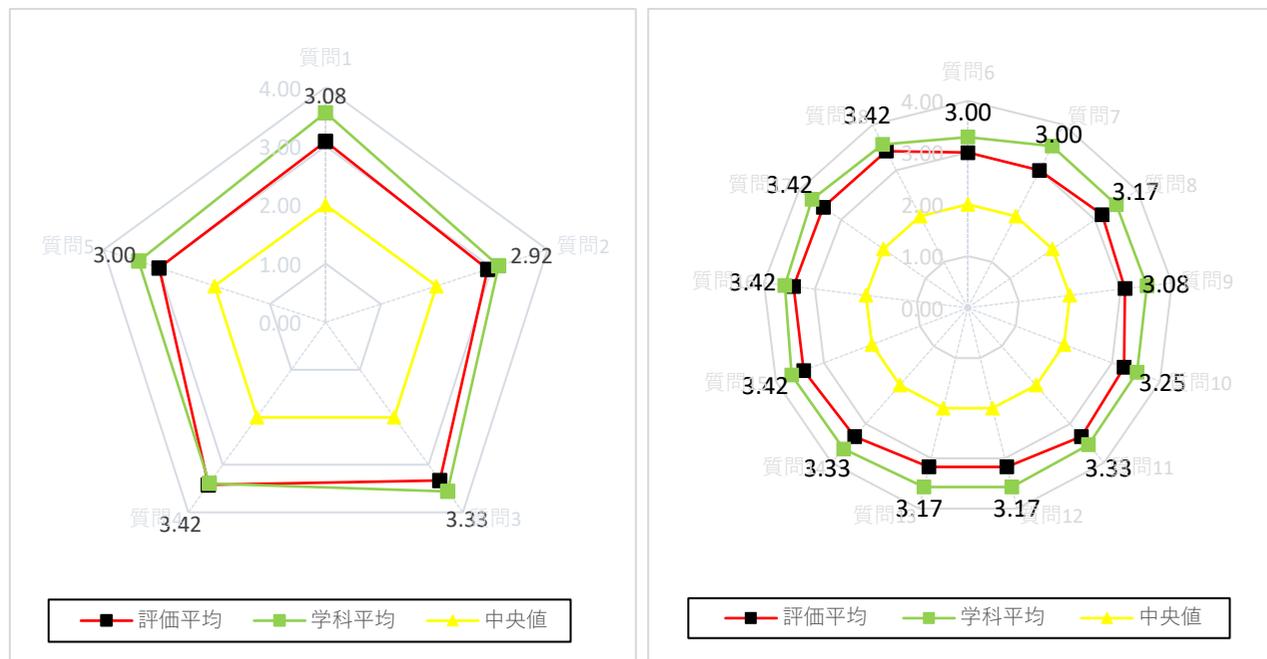
質問全般的に学科平均と同程度であった。本科目は全身の筋力を測定する技術について教授する講義であることから学生が覚えることが多く、授業の進み具合も比較的早い。より高い評価となるようさらなる工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の理解がより高まるようにより丁寧な指導を心がける。また、学生が興味をひくような解説ができるよう授業準備を行い授業を展開する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

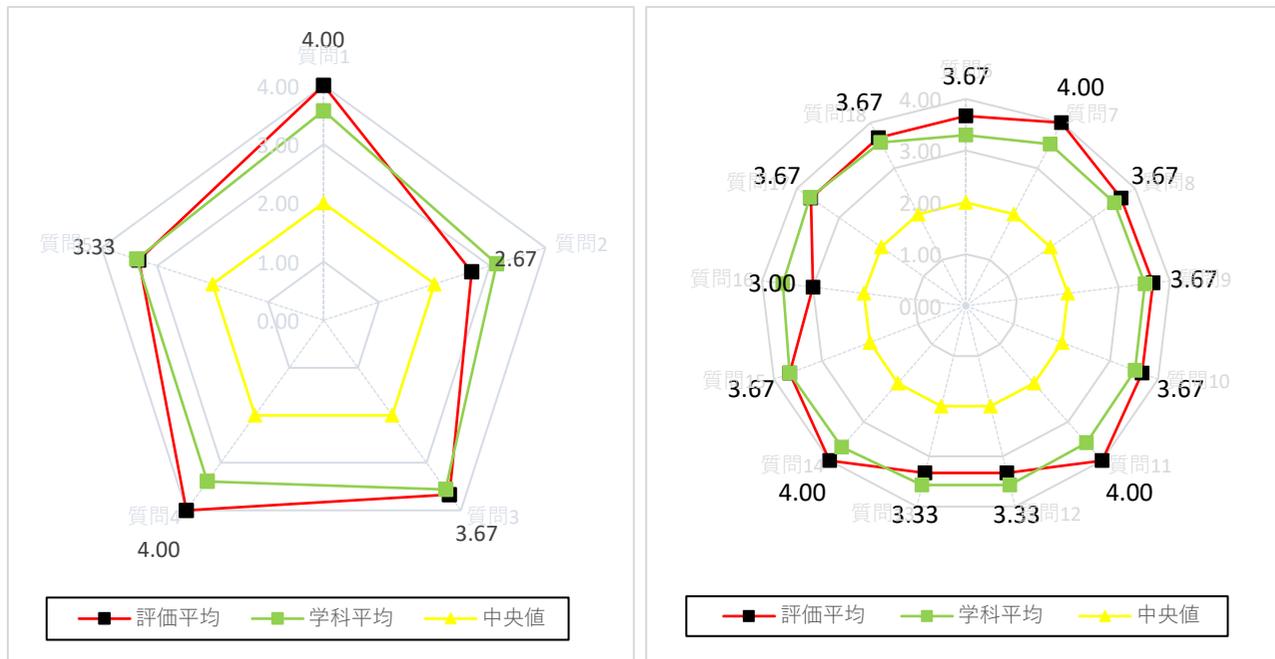
授業評価を実施していただきありがとうございました。全体的に3以上をおおむね良い評価をいただいた。ただ、学科平均より下回る項目もあるため、工夫が必要と感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

2020年の講義開始当初は遠隔課題授業であったため皆さんにはご迷惑をおかけしたと思います。シラバスに関する説明は、対面講義開始時に配布プリントをもとに第4回～15回までの講義の内容について、講義の目的と概要、評価については30分ほど時間を取って説明しました。(出席されていない方は聞いていらっしゃらないかもしれませんが)。評価が低いということは、説明が不十分であったととらえ、次回より、さらに丁寧に説明するように心がけます。この講義は座学中心で、後期に実技を予定していたため、物理療法の機器に触れる機会が少なく、わかりにくかった面もあったのかもしれませんが。次年度は後期に座学と実技を連続して行うように時間割を修正し、より深く理解できるように講義内容を工夫したいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学実習	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

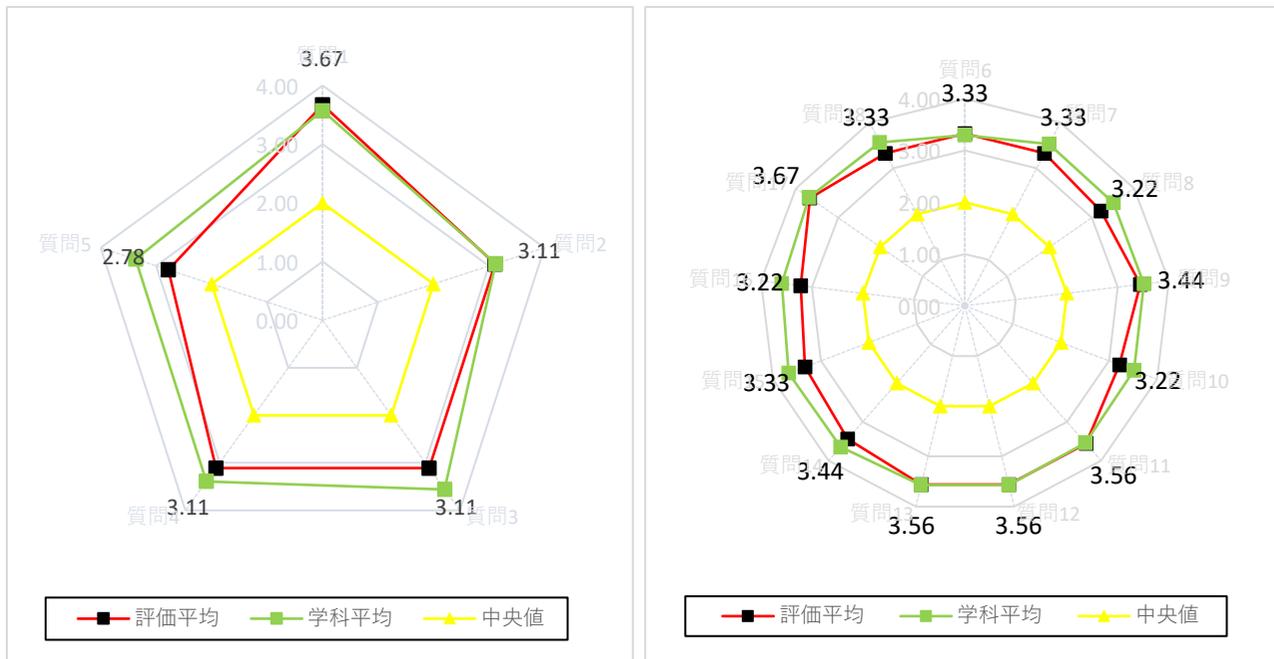
授業を評価していただきありがとうございました。全体的に3以上とおおむね良好な評価をいただいた。ただ、質問16は他の質問より低い評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の理解度を確認しながら、講義を進めるように努めましたが、講義中の双方向的なやり取りが、やや不十分であったのかと思います。次年度は学生がさらに講義に積極的に参加し、学生との対話を増やしながら講義を展開できるように工夫をしたいと思っています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法学 I	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

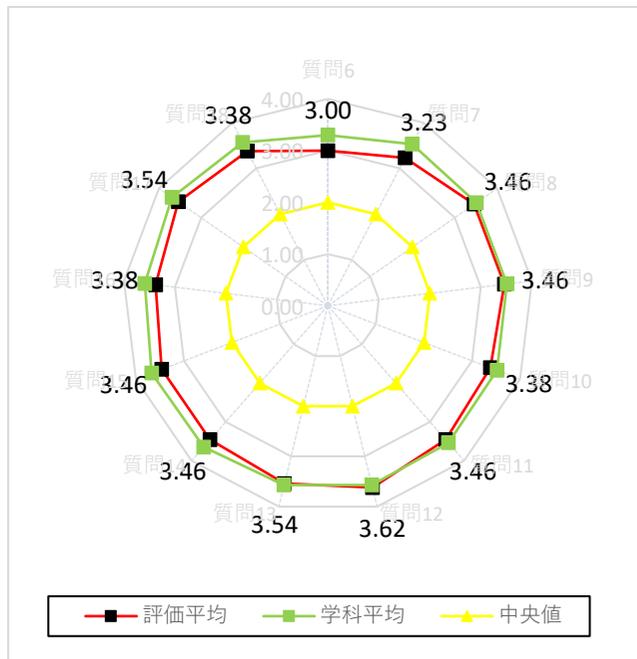
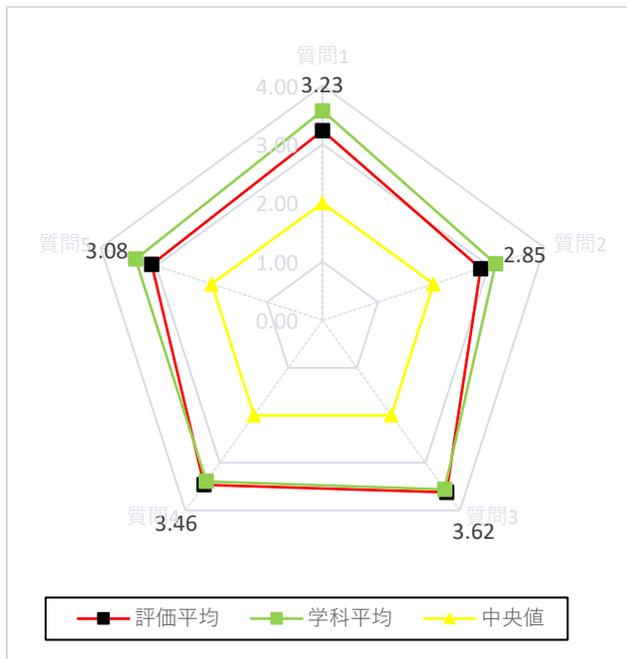
いくつかの質問において平均より低い項目があった。双方向的なやりとりや公平性については常に心がけていたが低い結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

双方向的なやりとりや公平性についてはより高い評価となるようこれまで以上に意識して授業に取り組む。また、より分かりやすい授業となるよう授業の準備を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

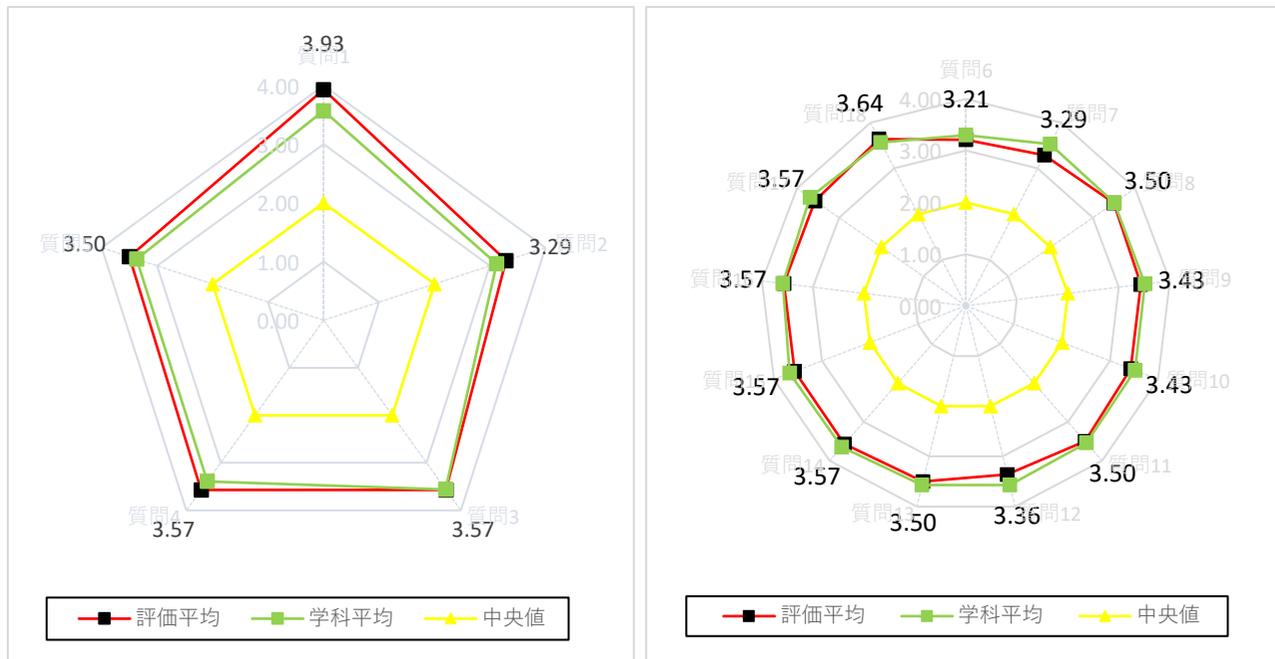
回答率57% (13/23) .
 総合評価 (質問18) で「不満・やや不満」はなかった.
 シラバスの説明 (質問6) で「不満・やや不満」が3名.
 到達目標の説明 (質問7) で「不満」が1名.
 視聴覚機材の活用 (質問10) で「やや不満」が1名.
 学生の質問への対応 (質問14) で「やや不満」が1名確認された.

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナ禍の講義で初回講義で行う「シラバス (到達目標)」の説明が不十分であった可能性がある.
 次年度に向け遠隔授業に対応できる説明資料を準備する.
 視聴覚教材の活用について、可能な限り実際の症例を提示しながら説明を行っているため、指摘の真意が掴めない.
 学生の質問への対応について、今年度の講義で学生からの質問はなかったため、指摘の真意が掴めない.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

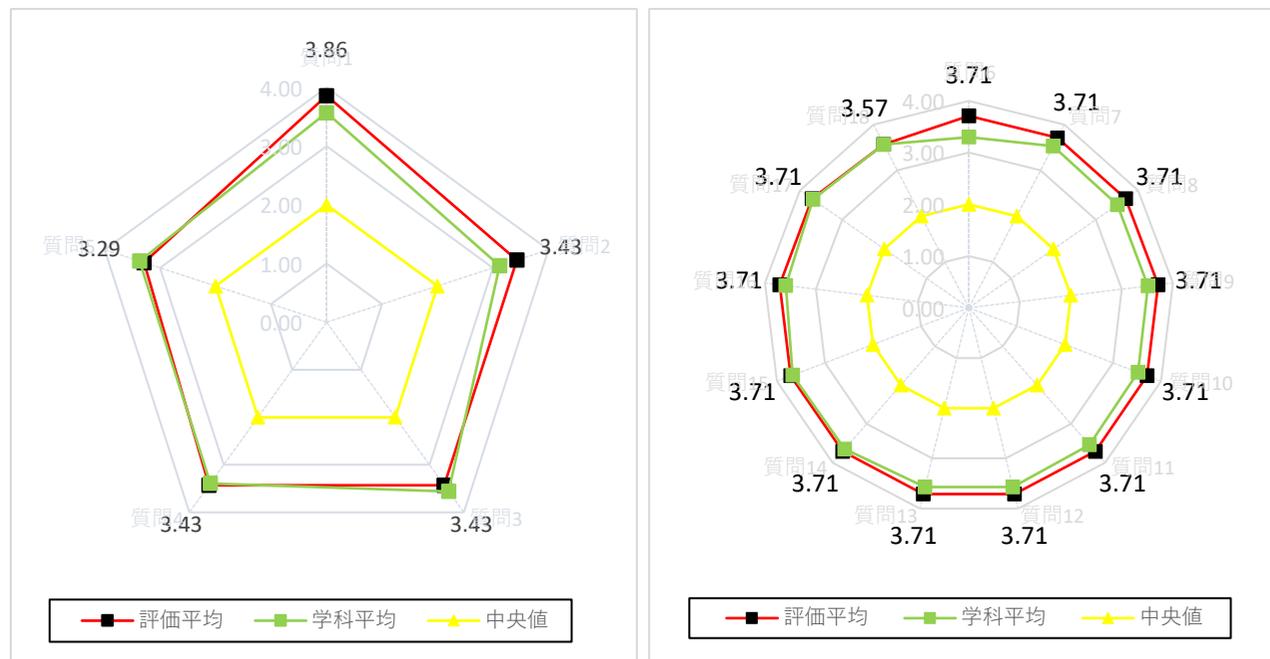
コロナ禍により当初は遠隔講義を実施した。
 学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
 また、実習に活用できるような知識が身につくような講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害作業療法学	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

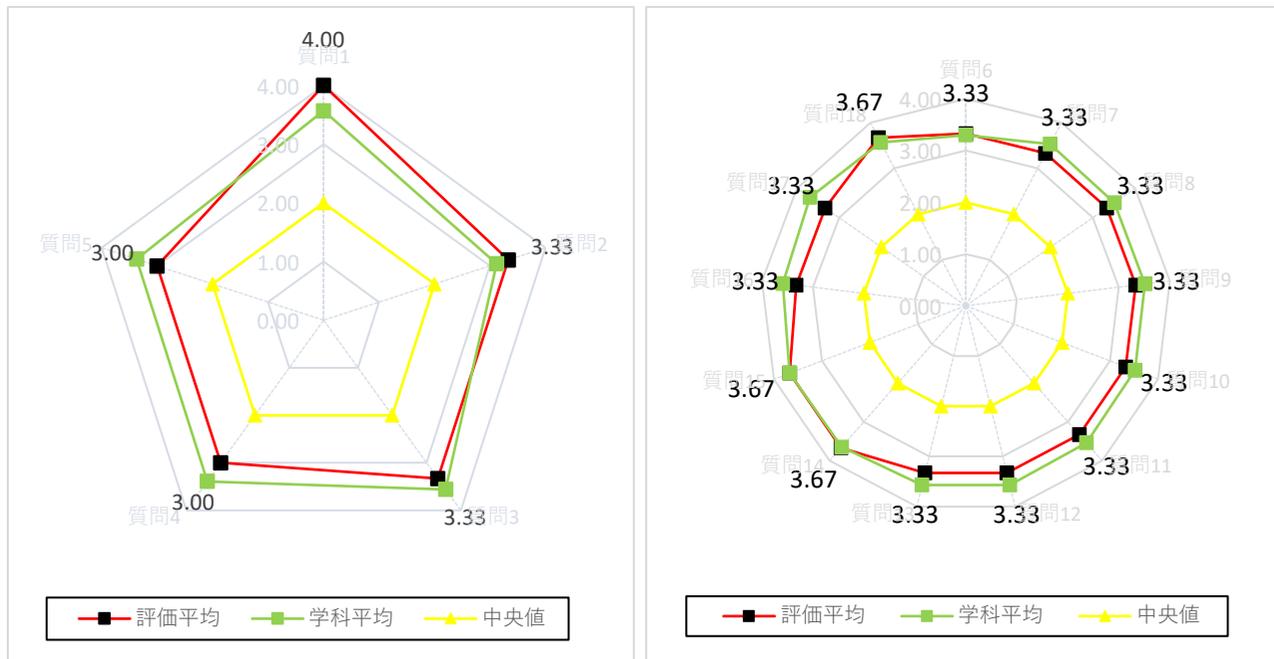
新型コロナウイルスの影響で、前半はオンライン講義となり学生も分かりにくかったことと思う。教員側もオンライン講義に慣れず、わかりやすいオンライン講義ができずに大変申し訳なく思う。また、対面講義が再開してからも、例年とは違うやり方が求められ、グループワークをしなかった。そのためあまりディスカッションする機会がなく、考えの広がりには乏しかった印象がある。そのような中でも出席状況は大変良く、学生自身のモチベーションの高さがうかがえる。また、思うような講義展開ができなかったにもかかわらず、学生からは比較的良好な評価を得られているため、学生が自分で学修の意味を見出し、実習や国家試験のことも見据えて学習した結果ではないかと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は世の中の情勢も昨年とは少し変わってきており、感染対策をしながら講義展開が出来るような状況となってきた。学生自身も感染管理について学修しており、講義の中でも臨床における感染管理を伝えられたらと考えている。オンライン講義になった際にも、昨年度の反省点やオンライン講義の展開方法の研修などで学んだことを活かし、わかりやすいオンライン講義ができるように配慮したい。また、昨年できなかった遊びの実習についても、感染予防に配慮した遊びを展開できるような指導を行っていきたい。学生が発達障害分野の作業療法に興味を持てるように、臨床経験をもとにした実例を講義の中で数多く話ができればと思う。さらに、現在目まぐるしく変わりゆく発達障害分野の状況について時事情報を入れながら、実習や臨床で活かせる講義展開をしていく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学実習	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

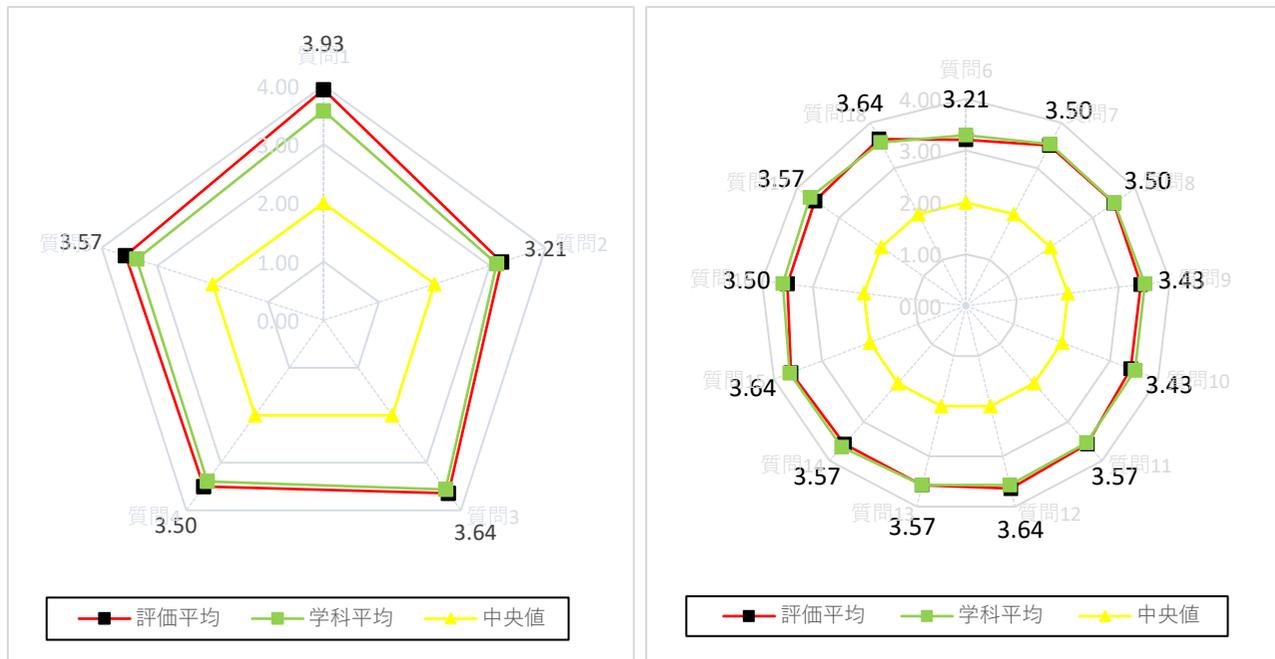
回答者数が少ないため、全体を反映した分析はできない。
 回答者に限って言えば、学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
 また、実習に活用できるような知識が身につくような講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学演習	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

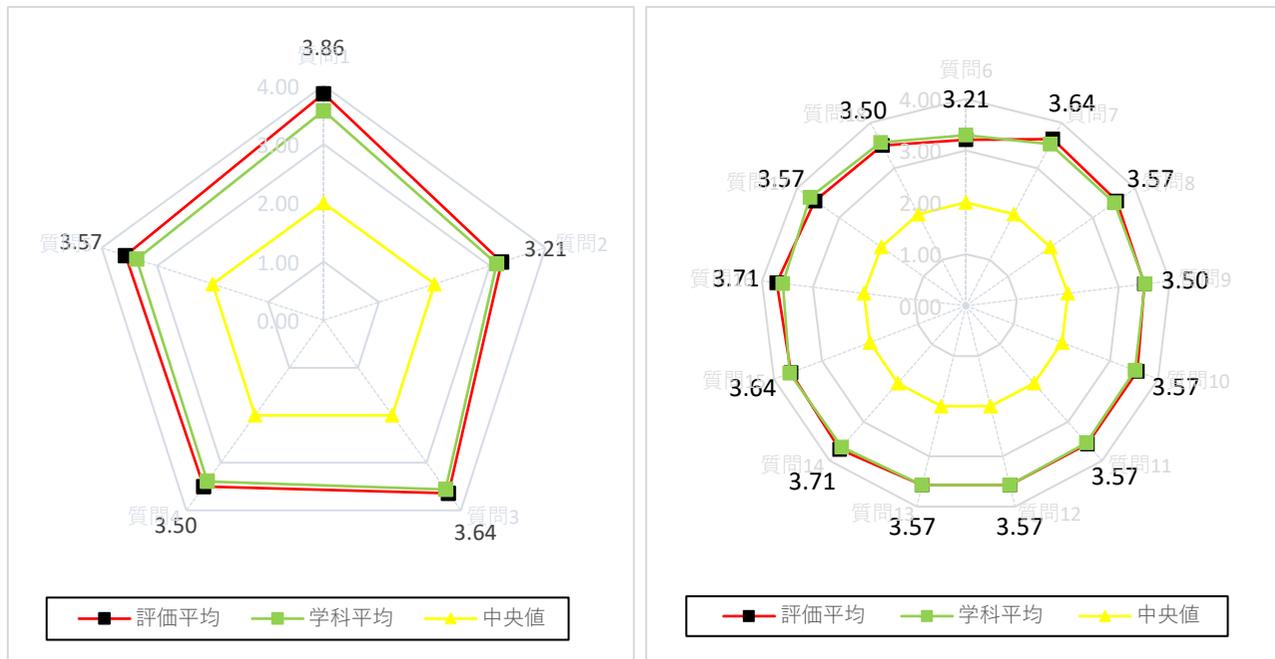
コロナ禍により当初は遠隔講義を実施した。
 学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
 また、実習に活用できるような知識が身につくような講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内部障害理学療法学	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

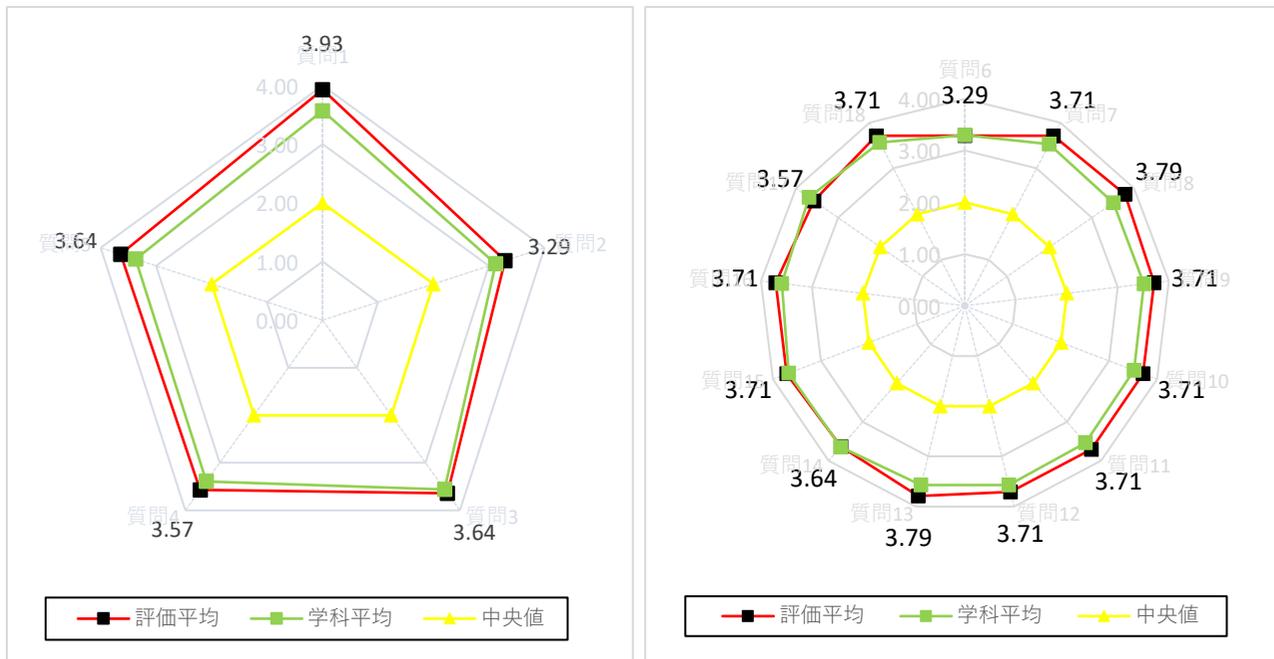
コロナ禍により当初は遠隔講義を実施した。
 学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
 また、実習に活用できるような知識が身につくような講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

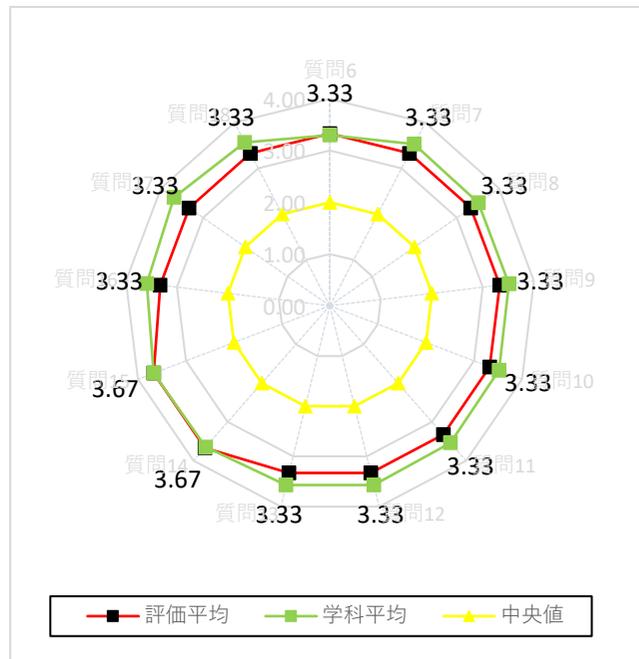
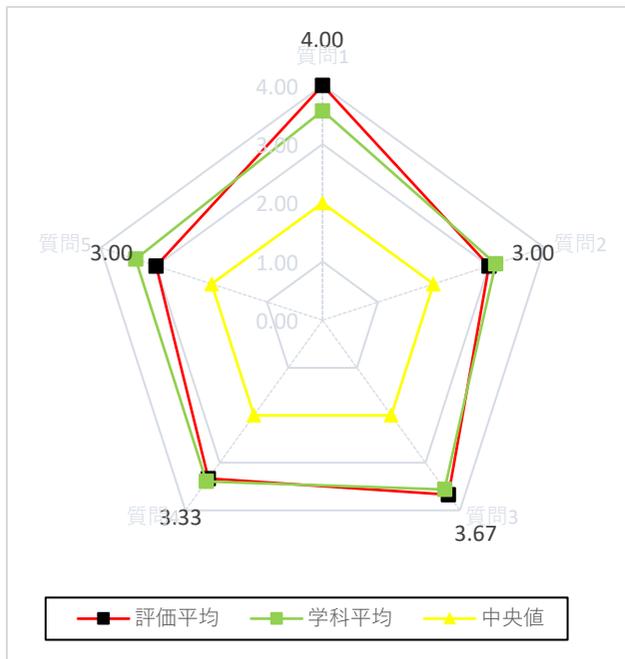
アンケート回答数が少ないが概ね高評価であった。今年度はオンラインでの講義が主となりシラバスの変更を行った。分析結果を見ると、シラバス変更については講義中に口頭で指示することが多かったため、学生へきちんと伝わっていなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

オンラインで講義をする場合の教材作成を早めに行う。また社会状況でシラバスを変更する場合は紙面上でも学生に周知していきたい。発達分野の理学療法は卒業するまで臨床現場を見ない学生もいることからイメージが付きやすいよう、なるべく視覚教材も利用しながら進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害理学療法学	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

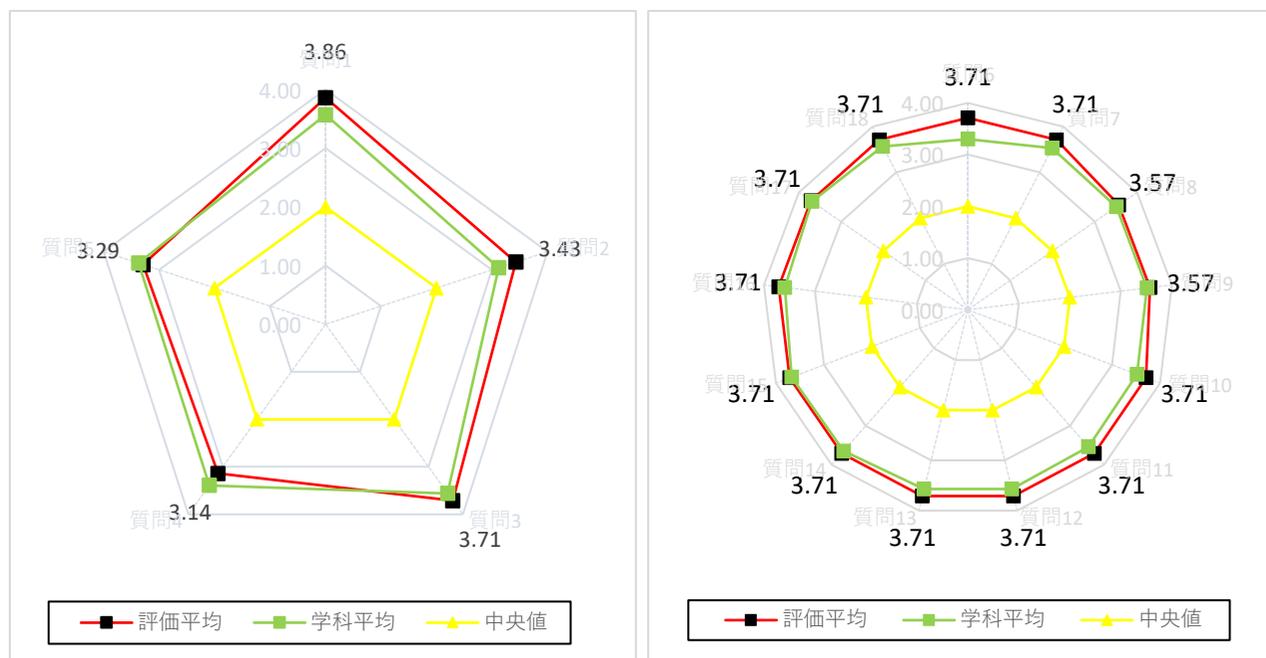
今年度は質問6のシラバス説明に対する回答が良かった。
本学学生には最低3回説明しないと伝わらない。

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度も座学だけではなく、より実践に役立つ演習系の講義も行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学演習	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

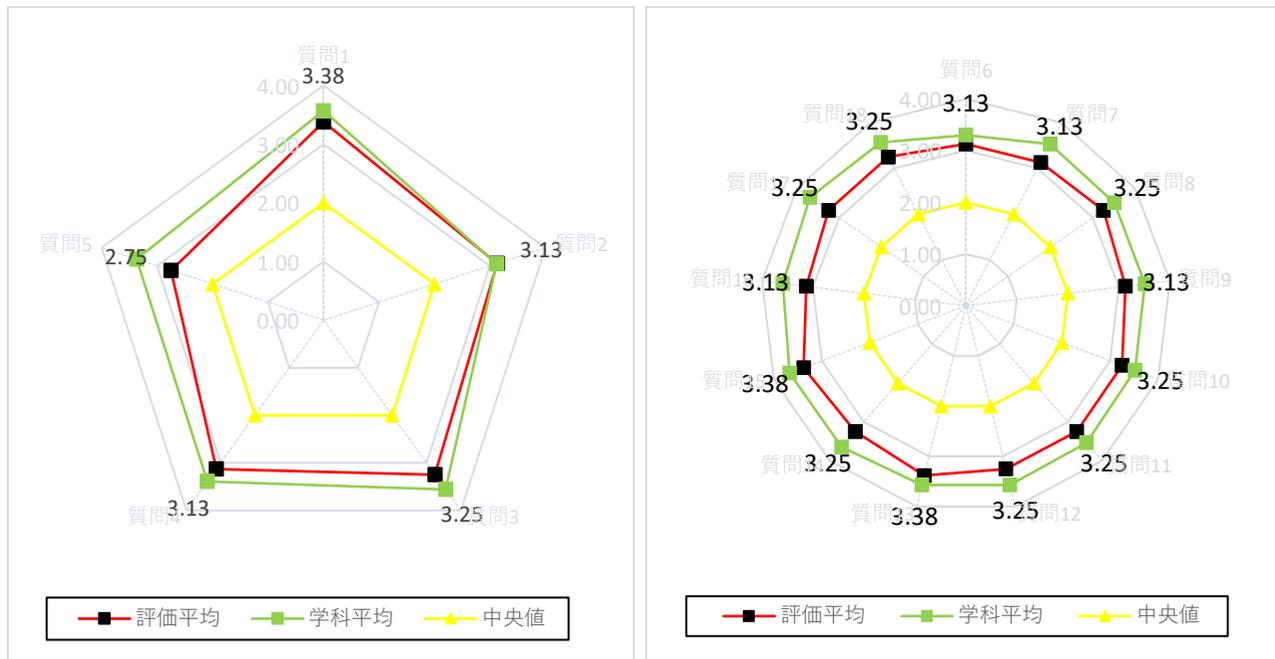
新型コロナウイルスの影響で、演習科目であるにもかかわらず実技指導が例年よりも少なかったことが大変悔やまれる。しかしながら、学生の評価は比較的良好であり、学生自身のモチベーションの高さがうかがえる。ただし、学生自身の工夫といった点では低くつけた学生が多く、これは教員側が理解の促しや自己学習の方法の提示が少なかったためと考える。出席状況はほぼ100%であったため、もっとオンライン講義の中でもできる範囲で実技の練習方法や自己学習の取り組みの確認など積極的に行えばよかったのではないかと考える。対面講義となつてからは、できなかった実技演習をたくさん詰め込んだので学生はうまく理解できないままに終わってしまったのではないかと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度は新型コロナウイルスの影響で実技演習が少なかったが、感染管理に配慮しながらできる範囲で実技演習をしっかり取り組みたい。また、人に触らなければいけない演習科目であるため、臨床における感染管理も講義の中でしっかり伝えていきたい。例年実施していたトランスファーの実技テストが昨年度できなかったため、次年度は実施できるように環境調整をし取り組んでいく予定である。さらに、実技についても分からないことやできないことをその場で解決できるように、講義の中で一人一人の習熟度をどの都度確認していくこととする。なぜこの技術が必要であるかということを経験場面を例に出し、イメージを持ってもらいやすいように具体的な説明をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

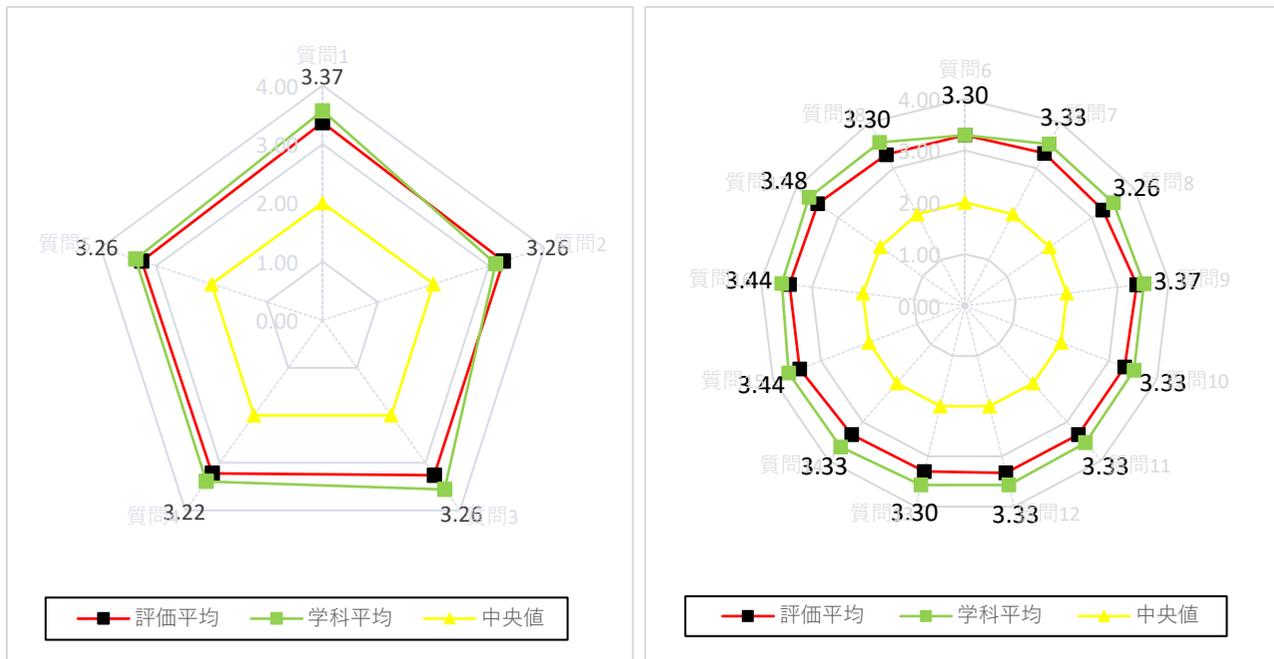
実際の義肢装具を授業内で使用し、期末の授業では実際に装具作成を行ったが学科平均より全般的に低かった。授業の分かりやすさや声の大きさ・スピードなど全体的に改善の必要性があると感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は別の教員が担当。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法技術学特論 I	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

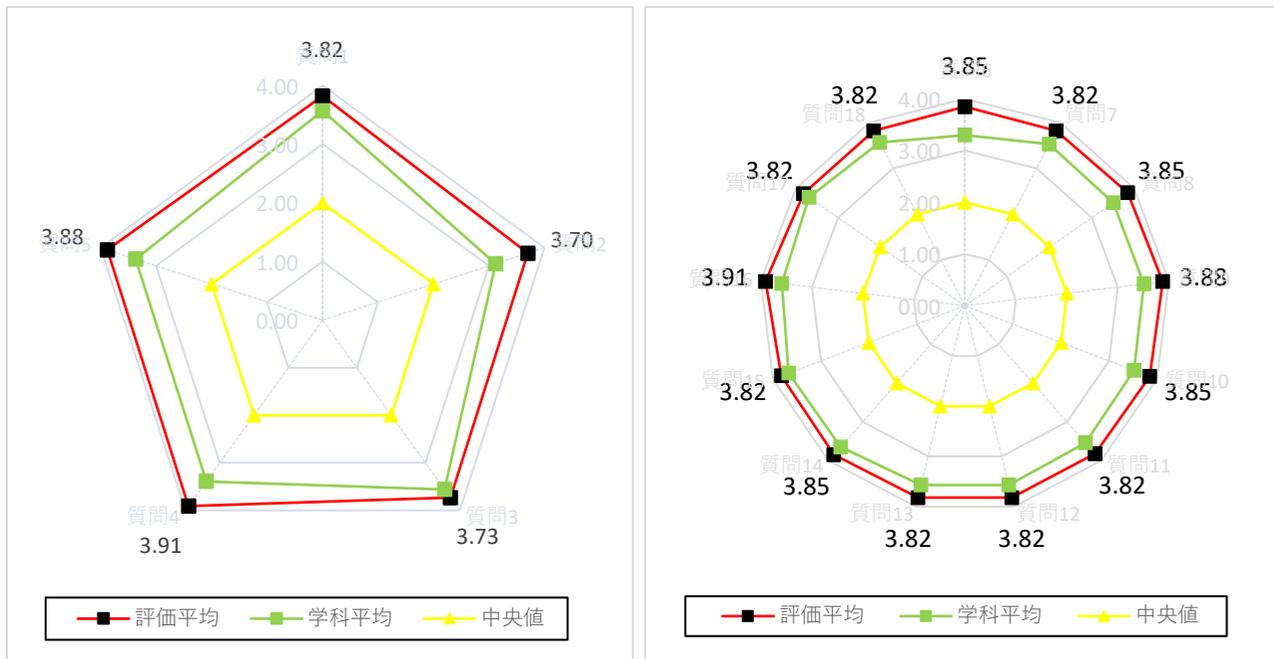
全体的に学科平均よりやや低かった。声の大きさやスピードなども常に気を付けてはいるがさらなる改善が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

選択科目であるが例年多くの学生が選択してくれている。次年度はより分かりやすく楽しい講義が展開できるようにさらなる工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学特論 I	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

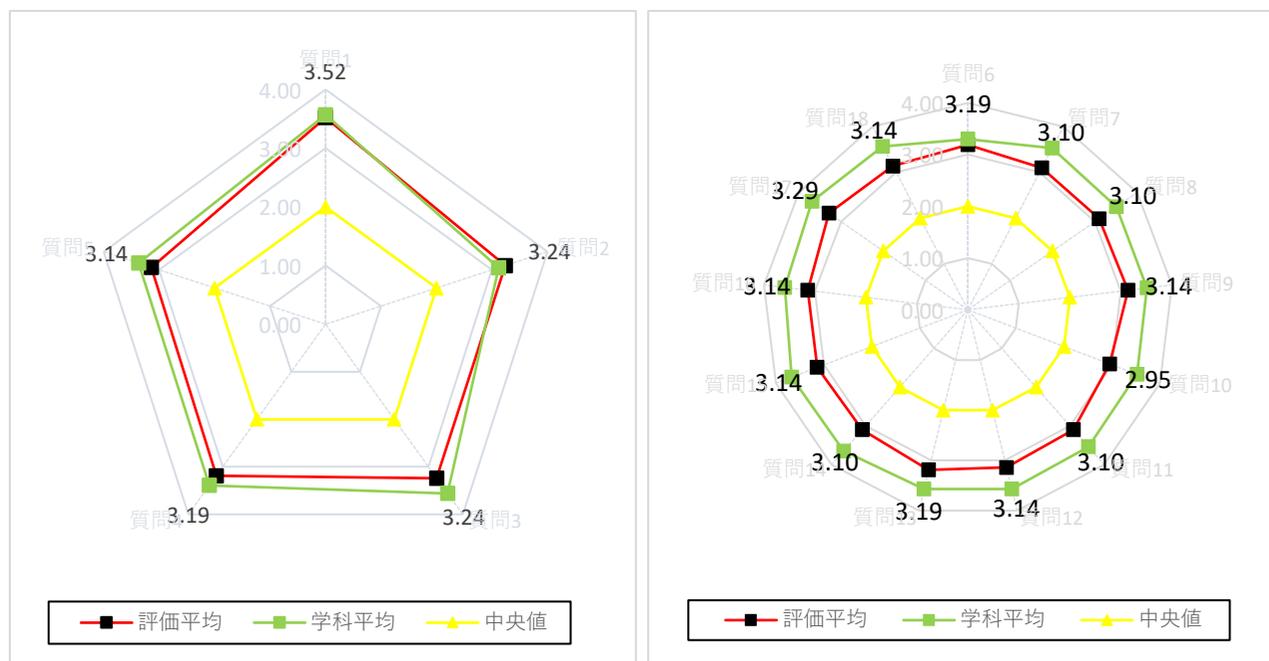
各教員の専門ごとの講義であったため学生の評価がどの項目も高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は12期の担任がまとめる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法技術学特論Ⅱ	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

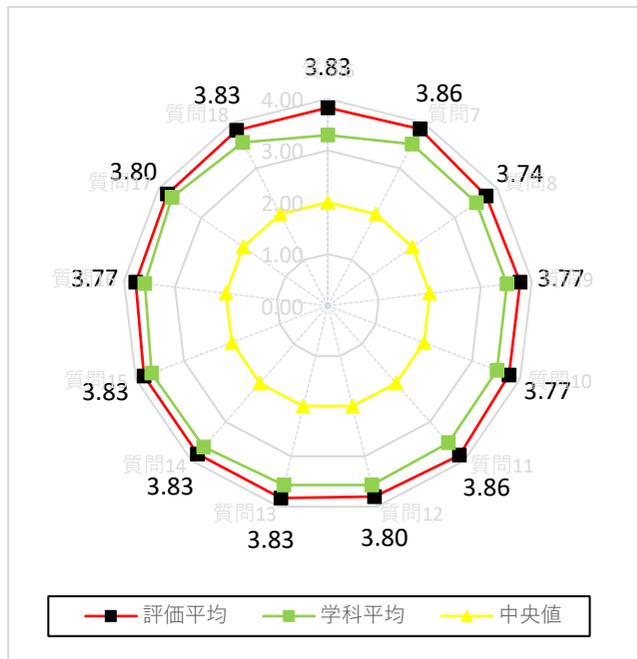
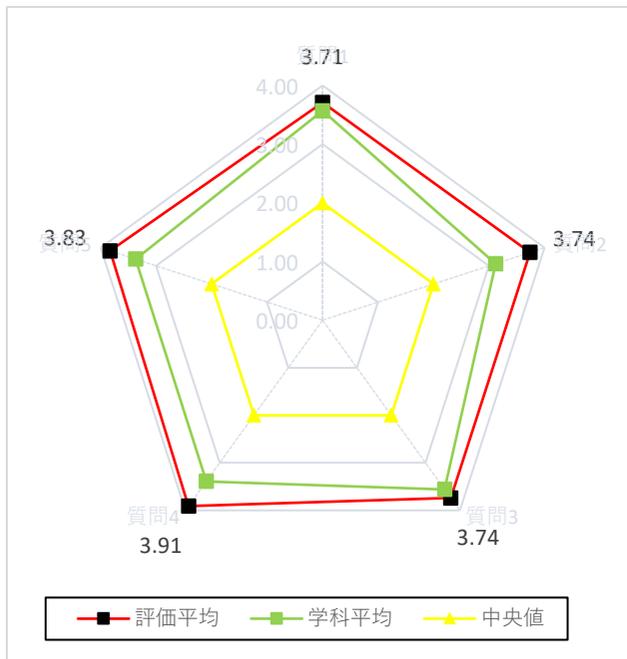
新型コロナウイルスの影響で例年取り組んでいた摂食嚥下や実際に子どもに対するアプローチについての実技演習ができなかった。例年は実際に子どもにアプローチする内容であったし学生としては技術学であるにもかかわらず、座学が中心になったことに違和感を感じていた可能性がある。出席状況は比較的良好ではあったが、この時期の4年生は就職活動とスケジュールが重なることもあり、数名休む学生がいた。事前連絡はあった。学科平均より低い評価であり、特に質問10の視聴覚機器や番所の用い方での満足度が他の質問に比べて低い傾向を示していた。シラバスの説明は行っており、プリントも配布しているため学生の確認不足の可能性もあり、もっと強調して伝える必要があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

4年生後期の科目であるため、より臨床に近い内容の講義展開を計画している。また、新型コロナウイルスの感染状況をみながら、実際の子どものための作業療法アプローチや、学生同士での実技練習ができるように配慮したい。新型コロナウイルス感染の状況によっては、実際に子どもを使う実技ができないため、代替案を事前にシラバス等で知らせていくなどの工夫が必要であると考え。発達障害および精神障害分野であるため、その分野に就職することがなければ、就職後は関わることはないと思われがちであるが、身体障害分野で働いていても対応を求められることがあることをしっかり伝えていきたい。また、3年時の治療学、4年前期の臨床実習をベースにさらに知識を重ねられるような授業展開をしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学特論Ⅱ	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

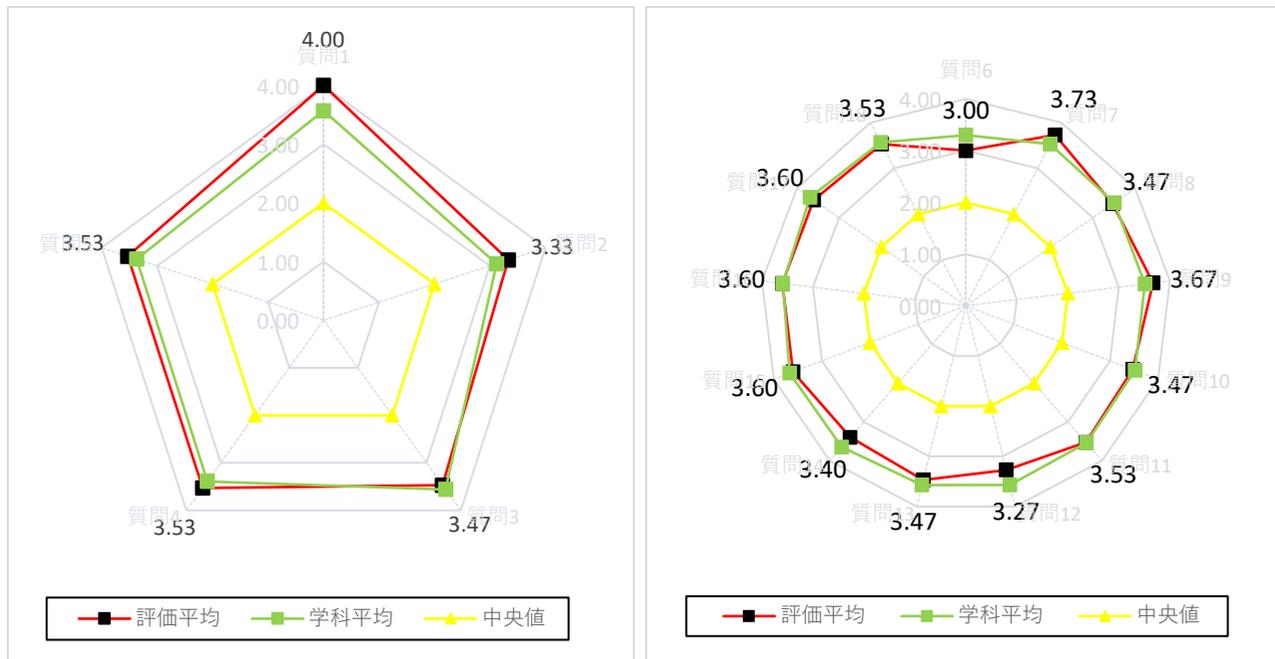
学生自身に取り組む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生が意欲的に取り組めるよう努めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法 I	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

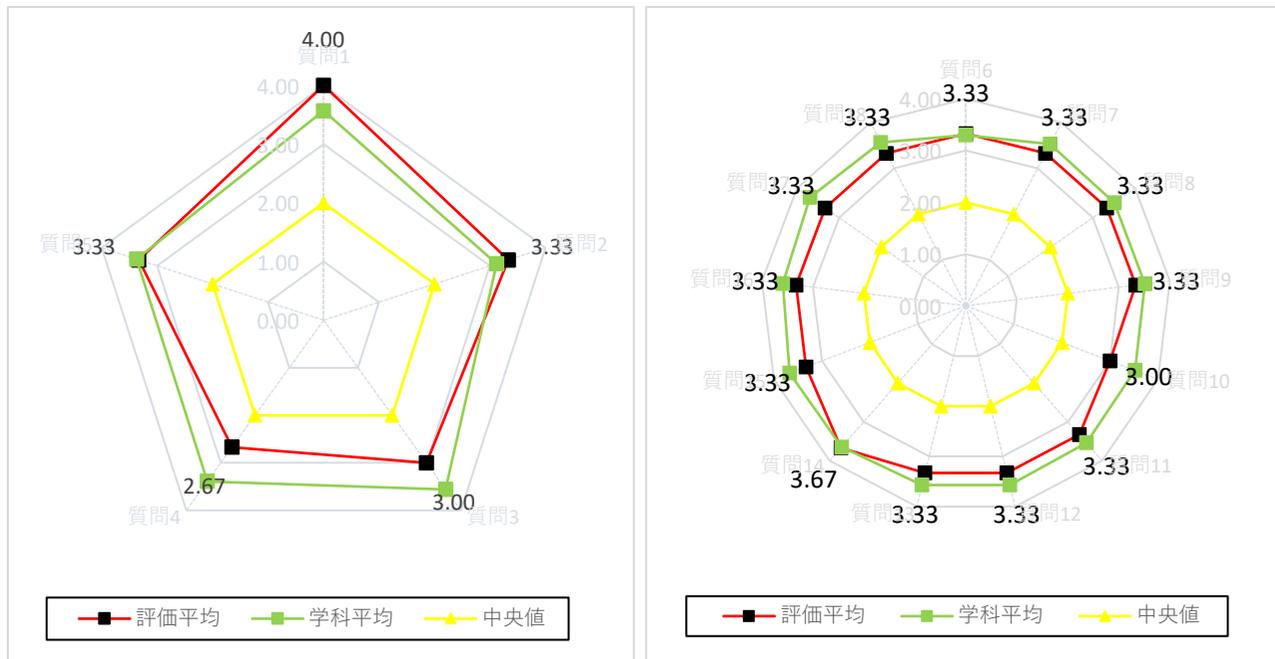
毎年、シラバスに関する質問の結果が低い。1回目の講義で説明はしているが本学学生には3回以上言わないと伝わらない。

(3) 次年度に向けての取り組み

ICFの環境に関して具体的事例を提示しながら学ぶスタイルを踏襲する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法Ⅱ	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

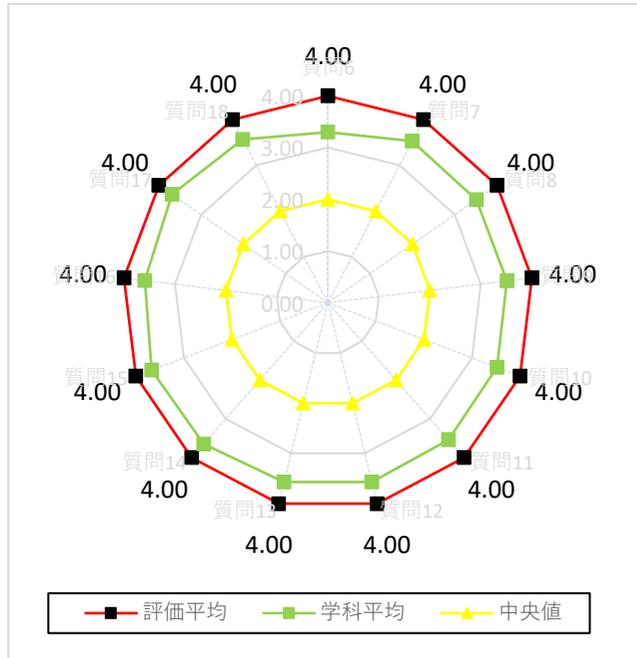
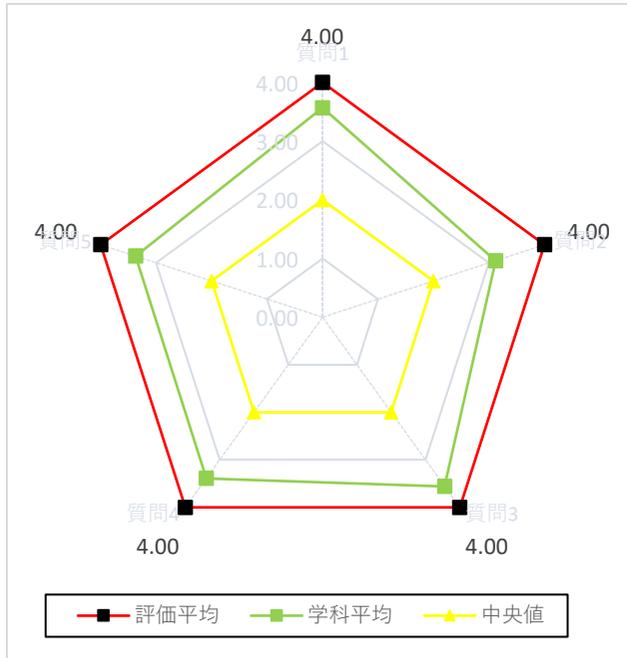
今年度は質問6のシラバス説明に対する回答が良かった。
本学学生には最低3回説明しないと伝わらない。

(3) 次年度に向けての取り組み

在宅サポートの見学やオスキーに向けた演習も取り入れる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅱ	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

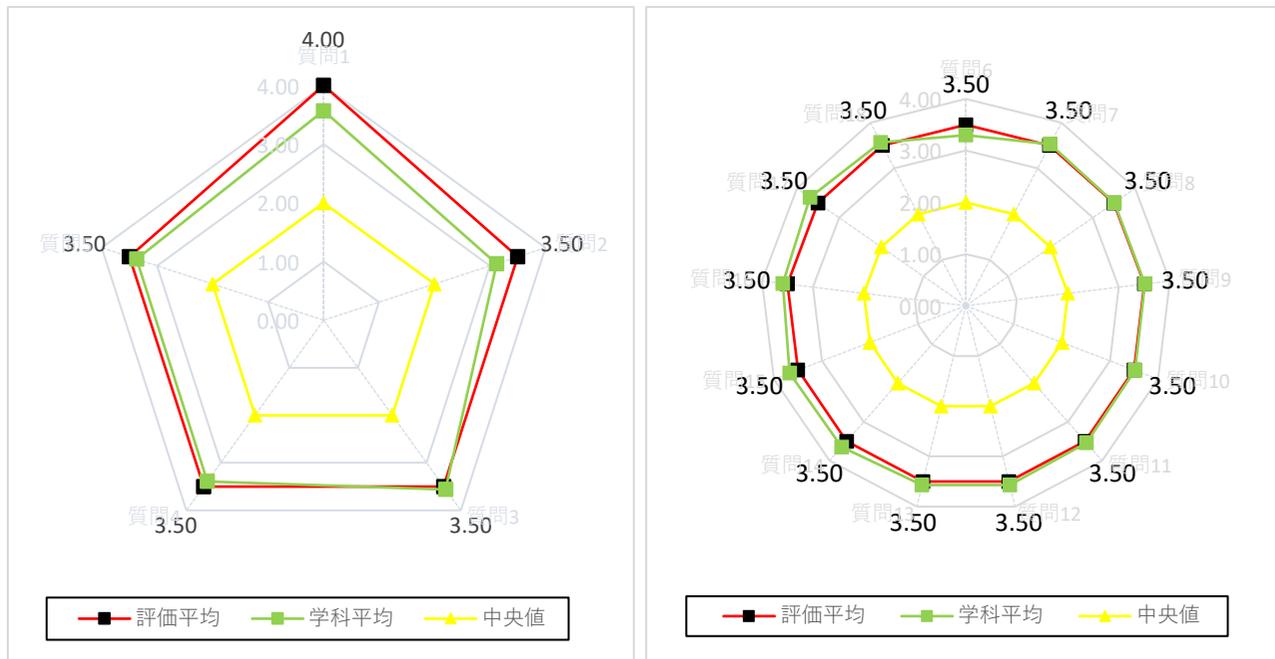
学生1名の回答であるため分析と評価は困難である。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生へアンケートへの協力を求めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅲ	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

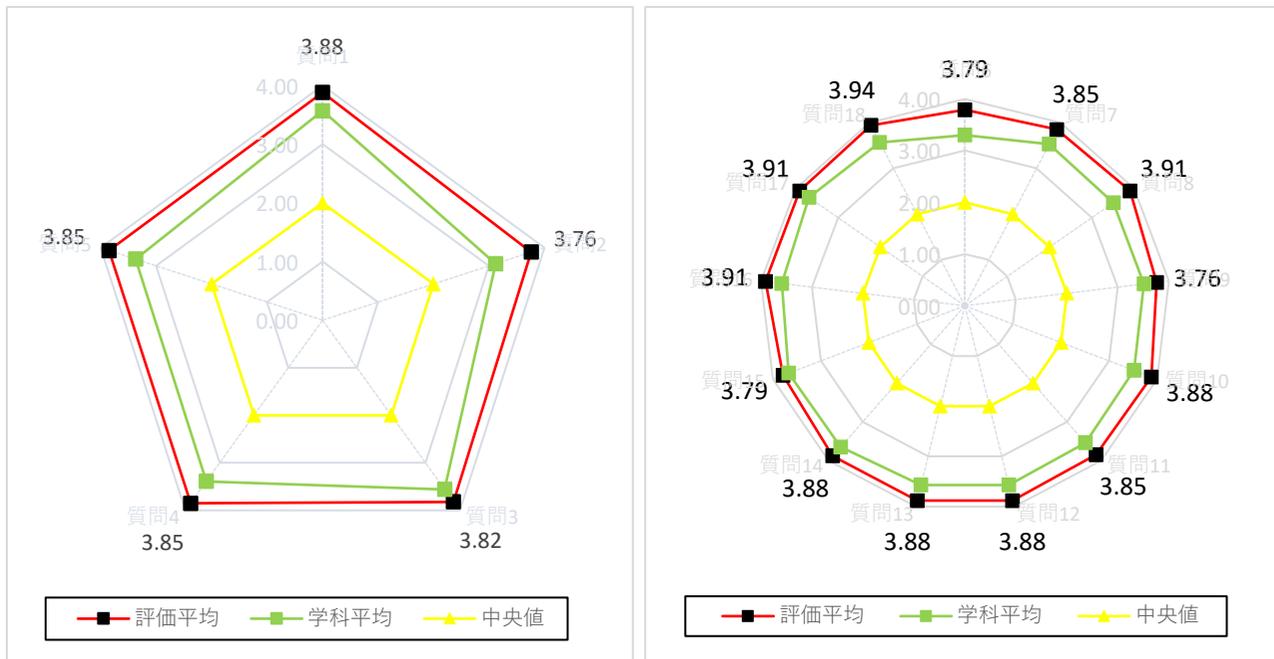
コロナ禍であり、臨床実習に出れない学生が出る可能性があったが、すべての学生が実習を履修することができて良かったと考える。
そのためか、比較的良好な評価が得られたと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はさらに大変な臨床実習になると思われるが、教員として努力を怠らないようにしたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		卒業研究	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

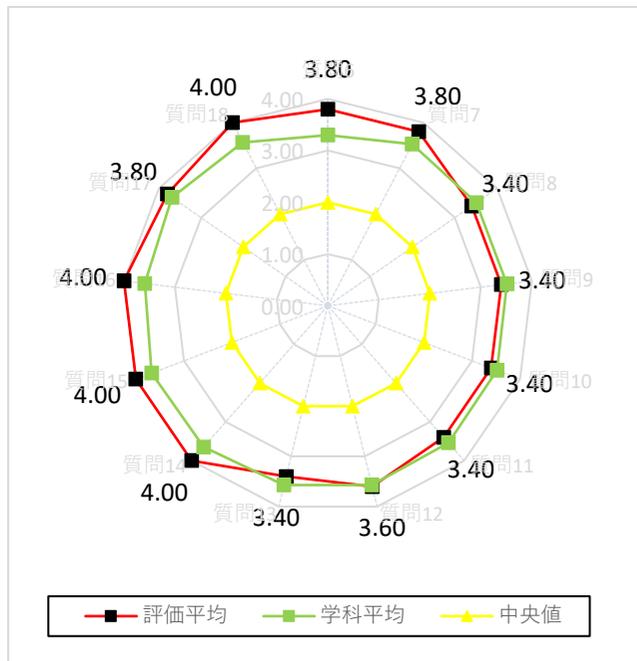
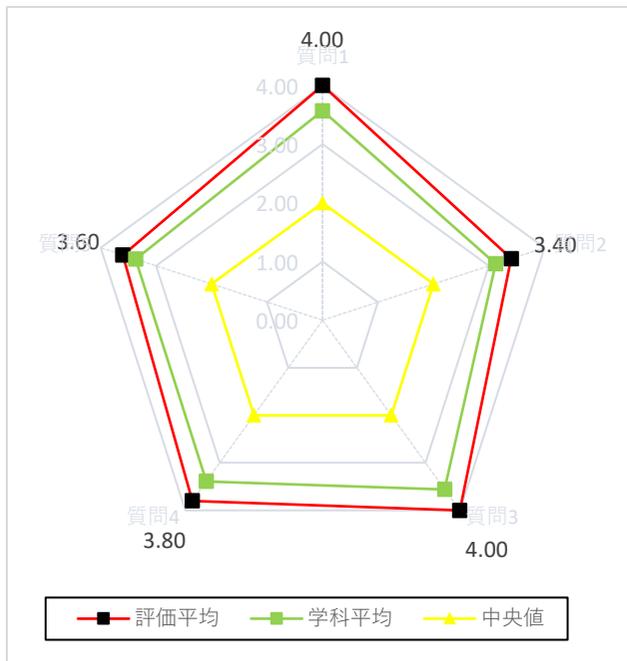
教員が早期からゼミ学習をしていたので学生からの回答もよかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次期は12期担任がまとめる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅳ-1	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

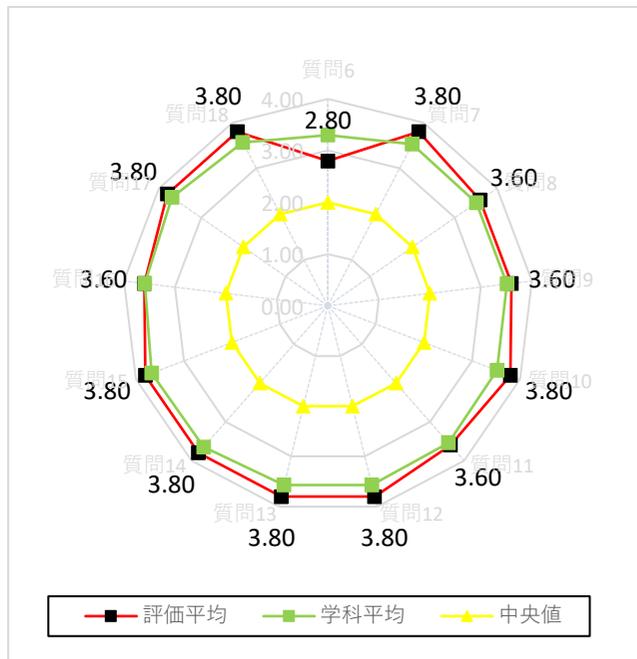
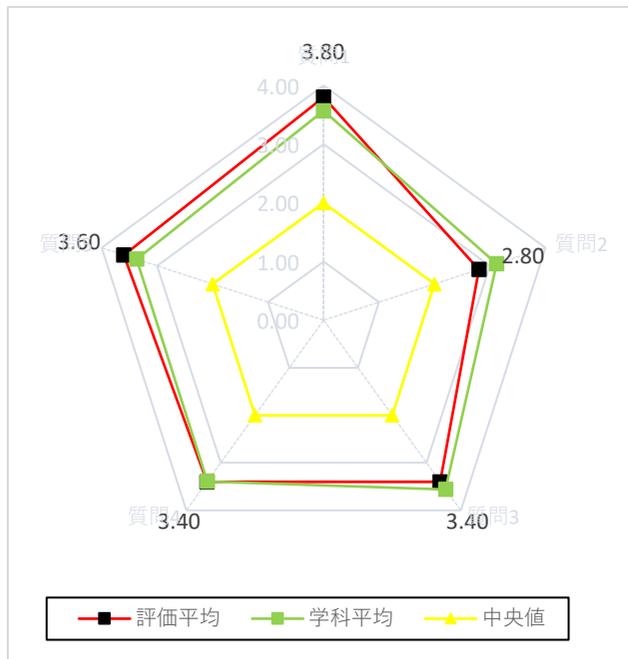
コロナ禍で実習Ⅳ-1は中止になったがPT教員が全員課題を出し、対処した。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もコロナ禍で実習が中止になればPT教員で対処する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅳ-2	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

シラバスが低いのが分からない。
 実習オリエンテーションは日々している。

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナ禍で中止になっても対処できるよう全教員で取り組む。